



Matsushima town tourism promotion plan

松島町

觀光振興

計畫

改訂版

二〇二四年三月

Matsushima town

松島町



松島町長 櫻井 公一

ごあいさつ

観光は人口減少を迎えている日本において、成長戦略の柱、地方創生の切り札であると考えております。世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も、国内では昨年5月に感染症法上の位置付けが第5類に移行し、国内外の観光需要は回復の兆しを見せ、多くの観光地が賑わいを取り戻しつつあります。

国は地方への人の流れをつくり、地方の所得を増やし、地方を活性化することを目的に、受入環境整備に力を入れ始めております。しかしながら、東北への来訪者数は伸び悩んでおり、まだまだ他地域に遅れを取っていると感じております。また、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化、観光ニーズの多様化、デジタル技術の観光分野への活用が進むなど、前計画策定時点とは観光を取り巻く環境は大きく変化しております。

東北観光を先導する松島として、国内外の観光需要の回復を最大に活かすためにも、新たな視点や施策を充実させる必要があることから、この度「松島町観光振興計画」を改定いたしました。

計画の推進にあたり、本町の観光業に深刻な影響を与えた東日本大震災からの復興・創造に加え、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復、更なる観光振興を通じた持続的な地域づくりに向けて、松島観光が目指す将来像を「いきる観光地・松島」として、来訪者や松島観光に関わる全ての人が、笑顔で「来て良かった」「住んで良かった」「働いて良かった」と思える観光地域づくりの実現に向けて各施策を積極的に展開してまいります。

結びに、本計画の改定にあたり、貴重なご意見をいただきました松島町観光審議会の委員の皆様、心より感謝を申し上げ、ごあいさついたします。

令和6年3月

目次

第1章 計画策定の基本的な考え方..... 1

1. 計画改定の趣旨..... 1
2. 計画の位置づけ..... 1
3. 観光振興計画の計画期間..... 1

第2章 観光を取り巻く情勢と観光の現状..... 2

1. 松島町の観光の現状..... 2
2. 観光に関わる社会動向..... 9
3. 松島観光が目指す将来像と実現に向けた課題..... 17
4. 松島観光が担うSDGs達成に向けた役割..... 18

第3章 観光振興ビジョン..... 19

1. 観光振興を進めるためのコンセプト・基本理念..... 19
2. 基本目標指標..... 19
3. 基本方針..... 20

第4章 観光振興プラン..... 25

1. 基本方針1：「日本三景 松島」の魅力再構築..... 27
2. 基本方針2：テーマ・ストーリー性の高い体験価値の提供..... 31
3. 基本方針3：国際的な観光ブランドイメージの強化..... 36
4. 基本方針4：時代の変化に対応した新たな担い手づくり..... 40

第5章 計画の推進に向けて..... 45

1. 推進体制..... 45
2. 進捗管理の方法..... 46



第 1 章

計画策定の基本的な考え方



第1章

計画策定の基本的な考え方



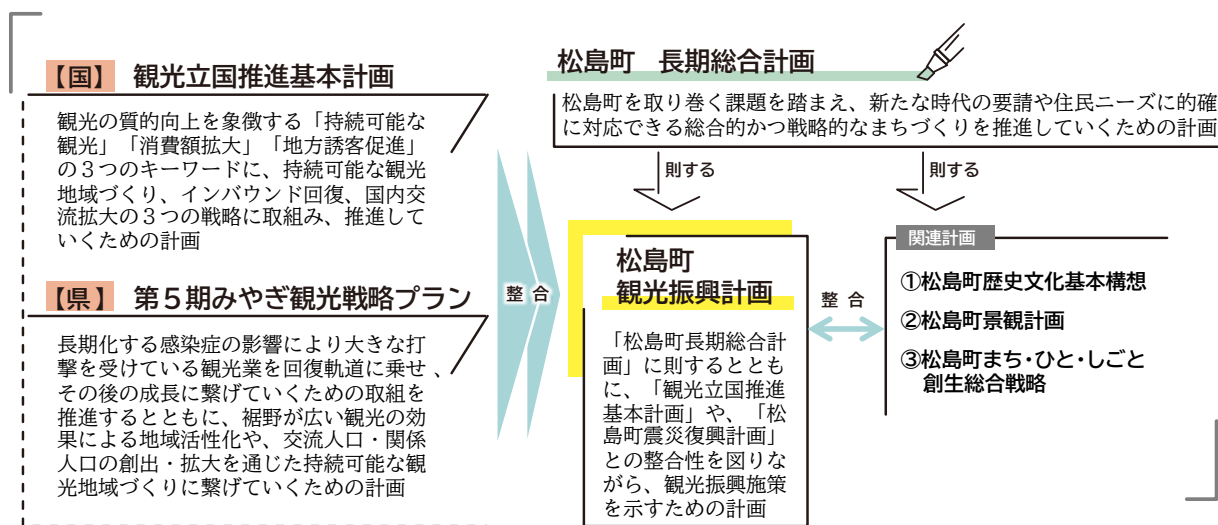
1. 計画改定の趣旨

松島町では、平成25年3月に向こう10年間を目標年次とした「松島町観光振興計画」を策定し、観光誘客事業や受入態勢整備事業など各観光施策を展開してきました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、観光入込客数が大幅に減少しましたが、その後の観光業の復興に伴い徐々に観光入込客数も回復傾向にありました。令和2年初頭から世界的に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の交流は激減し、地域の観光経済は今なお影響を受けています。こうした計画策定時に想定していなかった外部環境変化に適切に対応しながら、観光業を改めて回復軌道に乗せ、その後の成長に繋げていくための取り組みを推進していく必要があります。裾野が広い観光を通じた地域活性化や、交流人口・関係人口創出と拡大を通じた持続可能な地域づくりに繋げていくため、観光振興計画を改定します。

2. 計画の位置づけ

本計画は、「松島町長期総合計画」に則するとともに、「観光立国推進基本計画」や、「第5期みやぎ観光戦略プラン」との整合性を図りながら、観光振興施策を示すものです。



3. 観光振興計画の計画期間

計画の期間は、令和6年度から令和15年度までの10年とします。



第 2 章

観光を取り巻く情勢と観光の現状



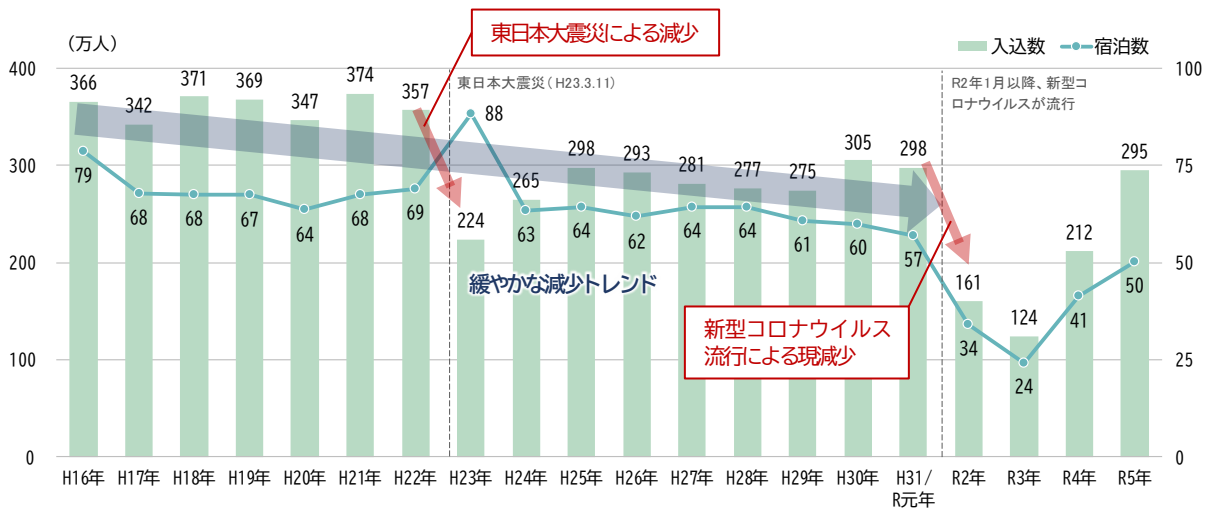
1. 松島町の観光の現状

(1) 松島町の観光に関する統計データ

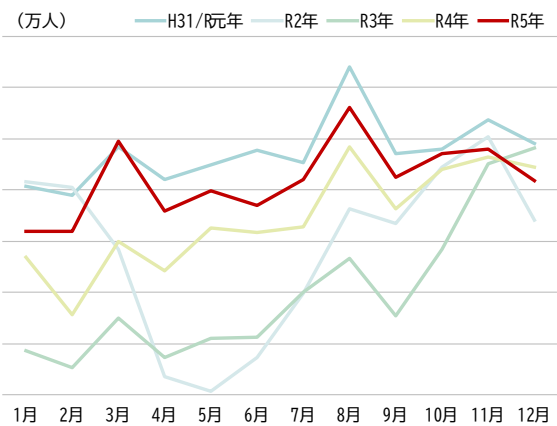
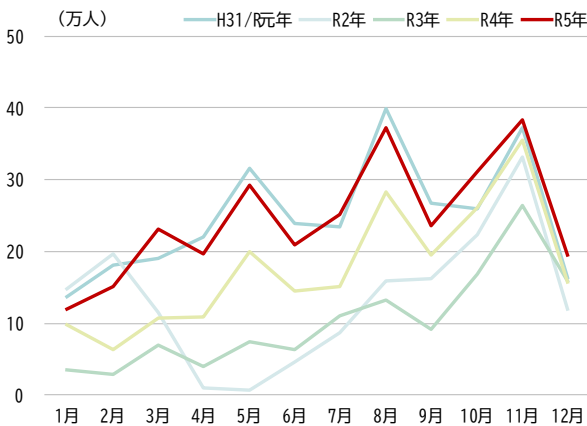
①観光入込客数・宿泊客数

直近20か年における松島町の観光入込客数は、平成23年に発生した東日本大震災や、令和2年に流行した新型コロナウイルス感染症の影響による大幅な減少も含めて、長期的に緩やかな減少傾向にあります。令和5年の観光入込客数は新型コロナウイルス感染症の流行以前と同水準まで回復してきており、今後増加傾向へと転換していくことが期待されます。

なお、直近5か年における月別観光入込客数、宿泊客数は、3月、5月、8月、11月にピークがあります。



図表-1 年別観光入込客数・宿泊者数 (20 か年)

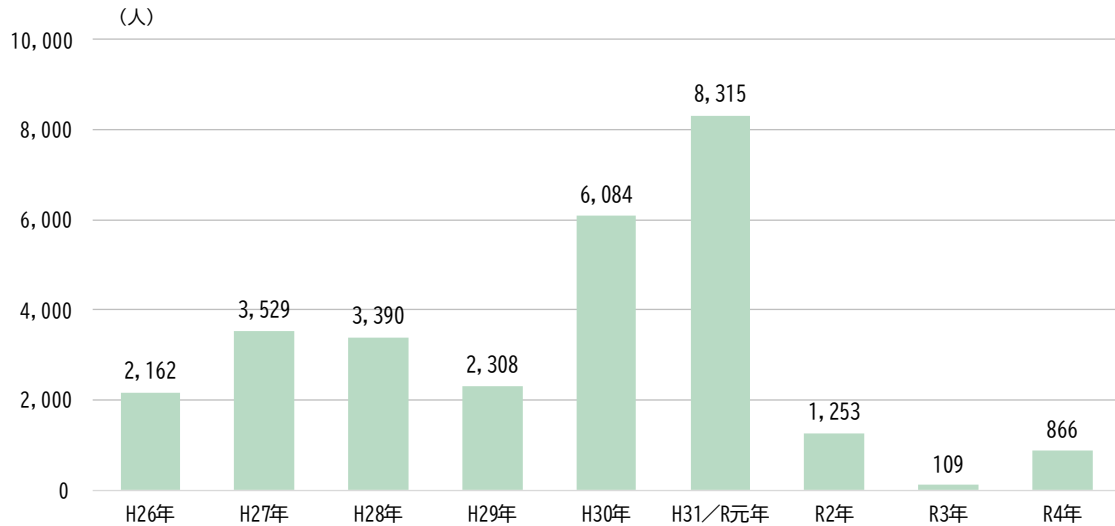


図表-2 月別観光入込客数 (5 か年) (左) 月別宿泊者数 (5 か年) (右)



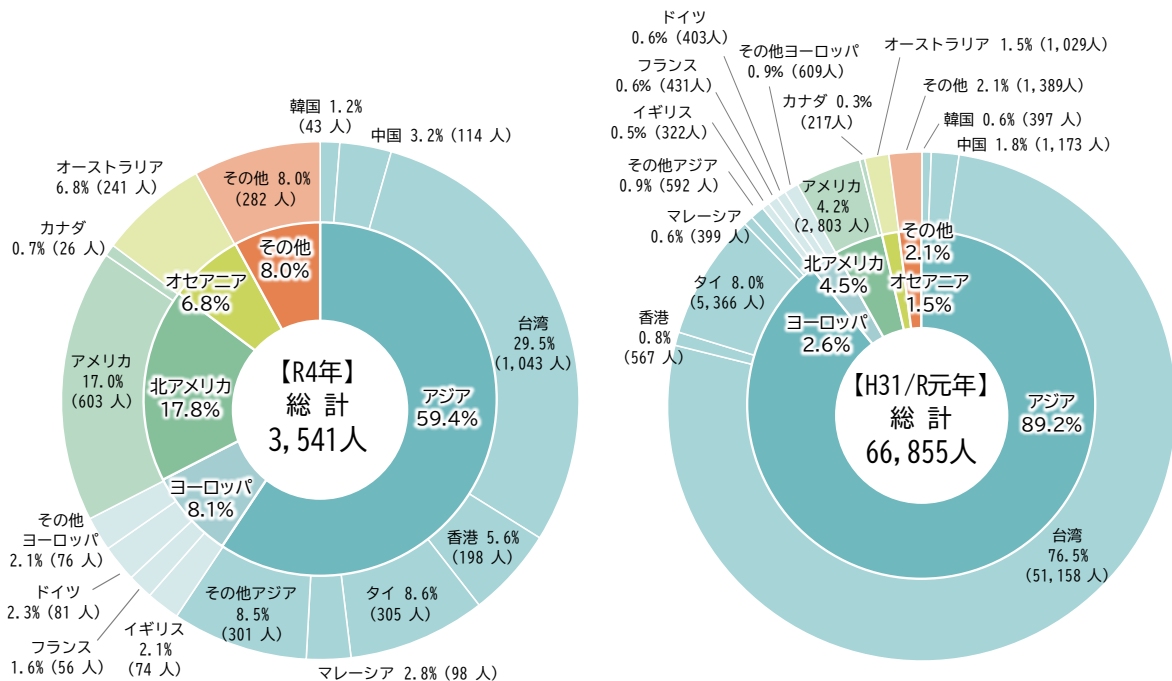
②外国人宿泊客数

直近9か年における松島町の外国人宿泊客数(※個人で宿泊施設への予約等を行った人数のみ集計)は、平成31年/令和元年に8,315人であり、平成26年の2,162人から5年間で約4倍に増加していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、近年は大幅に減少しています。



図表-3 外国人宿泊客数の推移

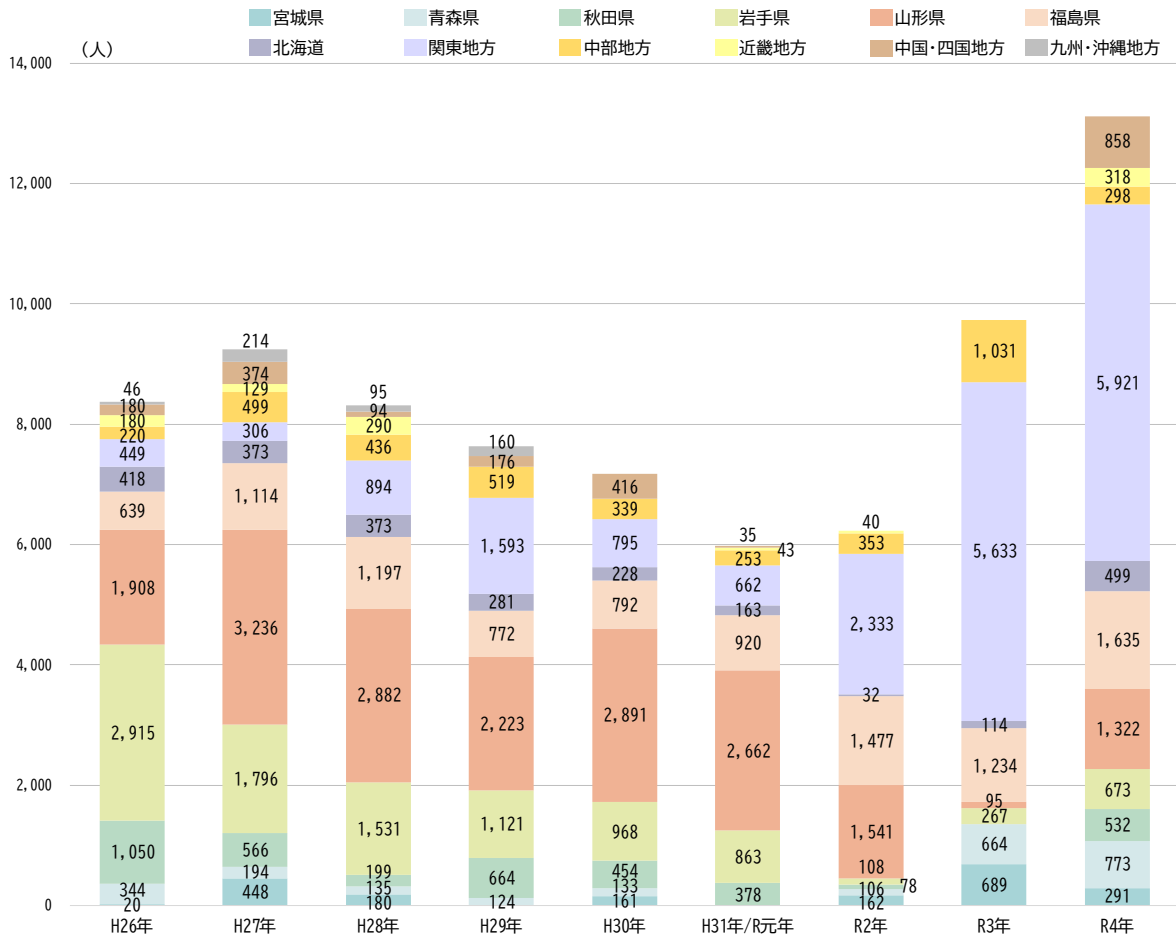
また、松島町の観光案内所における外国人観光客の利用者内訳を見ると、アジア圏からの来訪客が多くを占め、その中でも特に台湾からの来訪客が多くなっています。



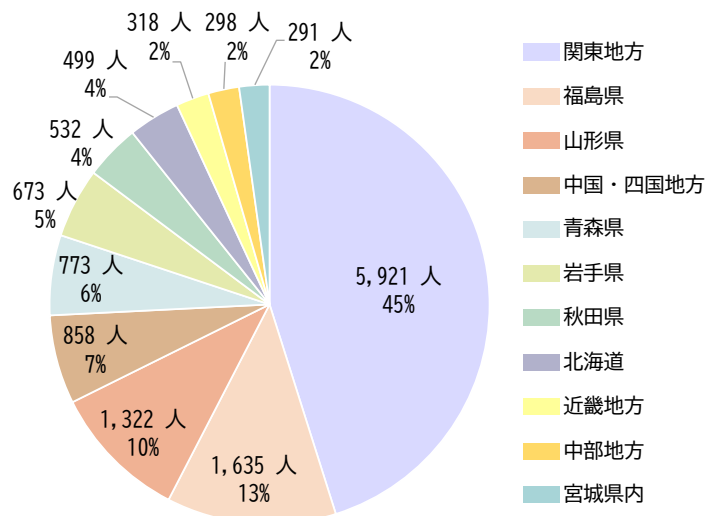
図表-4 年度別観光案内所における外国人観光客利用者の割合

③教育旅行客入込客数

令和4年の松島町の教育旅行宿泊者数は新型コロナウイルス感染症の拡大前と比較して大幅に増加しており、特に関東圏を出発地とした教育旅行の宿泊者数が大幅に増加しています。



図表-5 地域別教育旅行宿泊数の推移（9 年）



図表-6 令和4年 地域別教育旅行宿泊数



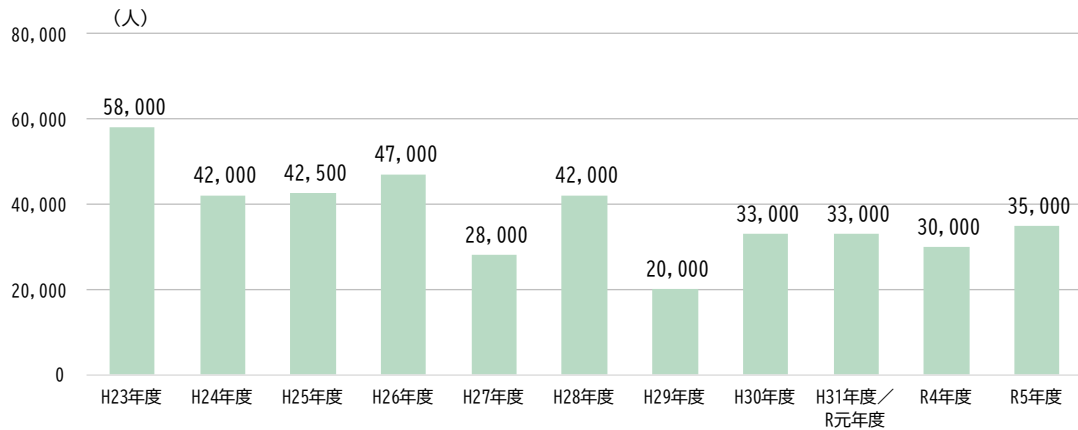
④主要観光イベントの現況

◆ 松島流灯会 海の盆

「松島流灯会 海の盆」は、東日本大震災を受け、鎮魂と供養を考へて始められた夏祭りです。七百年続く「大施餓鬼会」や「灯籠流し」の伝統による厳かな一面を持ちながら、前夜祭では盆踊りや供養花火など様々な催しが行われ、賑やかな祭りとなっています。



図表-7 松島流灯会 海の盆



※令和2年度、令和3年度については新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止

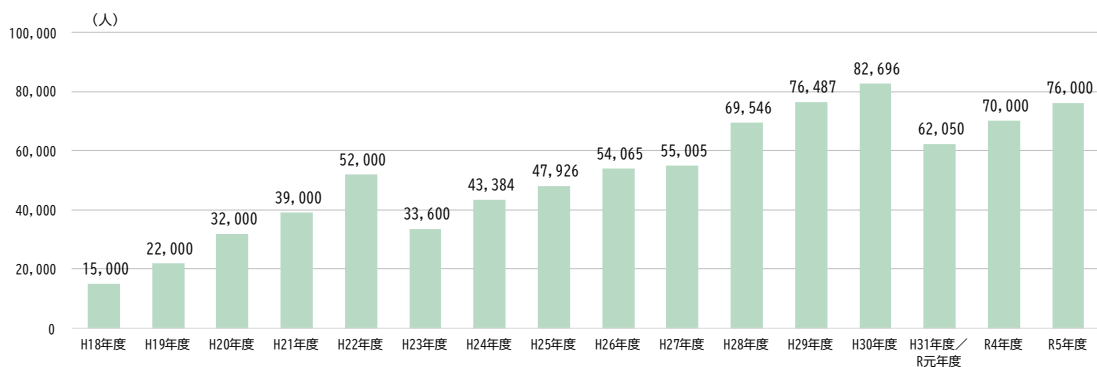
図表-8 「松島流灯会 海の盆」入込客数の推移

◆ 紅葉ライトアップ

紅葉ライトアップは、紅葉の見頃である11月上旬～中旬に瑞巖寺・円通院を中心に実施されており、瑞巖寺本堂の夜間拝観や、夕暮れ時におけるクルーズツアーなど、普段は見ることのできない松島の幻想的な風景を体感することができます。



図表-9 紅葉ライトアップ (円通院)
出典：円通院



※令和2年度、令和3年度については新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止

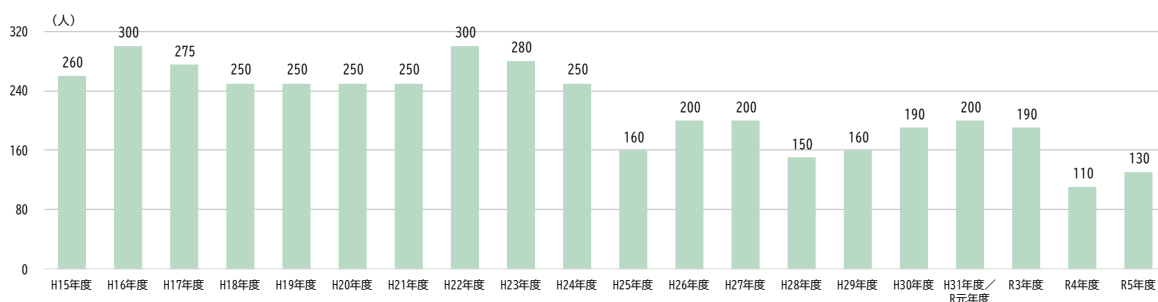
図表-10 「紅葉ライトアップ」入込客数の推移

◆ 松島芭蕉祭並びに全国俳句大会

「松島芭蕉祭並びに全国俳句大会」は、昭和30年から続く、宮城俳句協会と松島町との共催による歴史ある行事です。俳人・松尾芭蕉が瑞巖寺に参拝したことに因んで、午前中に瑞巖寺本堂で松尾芭蕉の法要を行った後、場所を移して午後には俳句大会が催されます。



図表-11 松島芭蕉祭並びに全国俳句大会



※令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響により投句のみの開催のため、現地への入込はなし

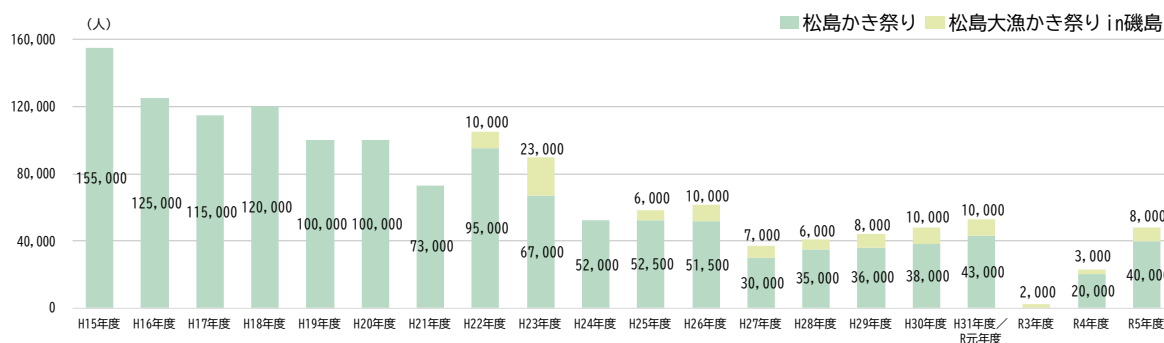
図表-12 「松島芭蕉祭並びに全国俳句大会」入込客数の推移

◆ 松島かき祭り／松島大漁かき祭り in 磯島

松島の冬の味覚である「牡蠣」を堪能する祭りとして、本町では例年2月の第1日曜日に「松島かき祭り」、例年11月23日(「牡蠣の日」)に「松島大漁かき祭りin磯島」が実施されています。採れたての松島産牡蠣や牡蠣料理が提供される他、松島の牡蠣の魅力を感じられる様々なイベントも合わせて行われ、県内外から多くの観光客が訪れます。



図表-13 松島かき祭り



※松島かき祭り：令和2年度、令和3年度については新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止。
 ※松島大漁かき祭り in 磯島：平成24年度については東日本大震災の影響により、令和2年度については新型コロナウイルス感染症の影響によりそれぞれ開催中止。

図表-14 「松島かき祭り」「大漁かき祭り in 磯島」入込客数の推移



(2) 松島観光の魅力



魅力1 歴史上の人々が憧れた、「日本三景」の一角をなす多島海景観

- ▶ 類まれなる多島海景観が、古くからその時代の文人・墨客の感性を揺さぶった憧れの地となっている。
- ▶ 国の特別名勝、県立自然公園に指定され、日本三景の一つとして全国的知名度があり、東北でも有数の景勝地である。
- ▶ 平成25年12月に松島湾が日本で初めて「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟しており、世界的にも魅力的で優れた自然を有することなどが評価されている。
- ▶ 松島四大観(松島町内は麗観・富山、幽観・扇谷の2か所)や、新富山、西行戻しの松公園といった松島を一望できるビュースポットがある。



魅力2 趣のある歴史的資源、観光資源が集積

- ▶ 瑞巖寺、五大堂などの国宝、国の重要文化財に指定される趣のある歴史的資源が点在している。
- ▶ 「歌枕の地」の他、雄島等を中心に「霊場」、「信仰の地」として魅力ある歴史的背景・ストーリーが数多くある。
- ▶ 寺町区域の景観など、歴史を感じられるまち並みがある。
- ▶ JR松島海岸駅を中心に瑞巖寺、五大堂などの社寺をはじめ、観光遊覧船、みちのく伊達政宗歴史館などの観光施設が集まっている。
- ▶ 平成28年4月に文化庁が選ぶ「日本遺産」に、松島町を含む関連市町で構成された「政宗が育んだ“伊達”な文化」が認定されている。
- ▶ 松島流灯会海の盆や瑞巖寺大施餓鬼会、松島灯籠流し、松島かき祭り、松島紅葉ライトアップなどの著名なイベントが多く、多くの来訪客を集めている。



魅力3 交通アクセスの利便性が高い

- ▶ 仙台空港は全国の主要空港とを結ぶ国内線が多く運航している他、台北やソウル、北京等とを結ぶ国際線も運航しており、日本国内やアジア圏からの交通利便性が高い。
- ▶ JR 東京駅から JR 仙台駅までは新幹線で約1時間40分、仙台空港から JR 仙台駅までも約30分と広域交通としてのアクセス性も良好である。
- ▶ JR仙台駅からJR松島駅までは25分、JR松島海岸駅までは40分であり、電車の運行本数が多い。
- ▶ 東北自動車道大和ICより30分、三陸自動車道松島海岸ICがあり、アクセスが良い。



魅力4 海と山の食材が豊富

- ▶ 世界的な漁場である三陸沖や内水面漁業が盛んな南三陸、クロマグロの水揚げが日本一(2022年)の塩釜港が近接するなど、新鮮な魚介類が多く、来訪者をもてなすことができる環境にある。
- ▶ 松島町内においても新鮮な魚介類が豊富にあり、かきやあなご、あさり、笹かまぼこなど、海の食材が特産品となっている。
- ▶ 山の食材も豊富にあり、環境保全米や水耕トマト、松島白菜をはじめとする野菜などが松島の地産品となっている。

(3) 前計画の振り返り

平成25年3月に策定した前計画(松島町観光振興計画)では、以下の観光振興の将来像・キャッチフレーズや、7つのプロジェクトと各プロジェクトを推進するための人づくり・組織づくりを位置づけていました。計画期間(平成25年～令和4年)を通して、各プロジェクトに関わる具体施策に取り組むものとしていました。

将来像

自然と歴史が紡ぎあう 誰かを連れていきたくなるまち

キャッチフレーズ

美しい景観 美しいおもてなし 美しい暮らし

前計画において位置づけた将来像や施策等に基づき様々な取り組みを進め、体験学習メニューの充実や紅葉等のライトアップイベント実施などのソフト事業が進んだ他、アマモ再生などの海浜復興・環境整備や松島海岸公園の整備など、今後の観光振興に繋がる取り組みが実現しました。

その結果、インバウンド需要の高まり等も追い風となって平成30年には観光入込客数が305万人まで回復しました。その矢先、新型コロナウイルス感染症の流行が世界的に人の移動を激減させ、観光需要を減退させました。結果として、本町のみならず、宮城県や日本における観光入込客数・宿泊者数、訪日外国人客数はいずれも大幅に減少してしまいました。

しかしながら、令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、国内外の人の往来が再開し、観光客は増加に転じました。ただ、新型コロナウイルス感染症による人々の生活様式の変化、観光ニーズの多様化、デジタル技術の観光分野への活用が進むなど、平成25年の前計画策定時点とは観光を取り巻く外部環境は大きく変化しており、前計画の内容ではこうした環境変化にうまく対応できない状況となっています。

また、前計画に位置づけていなかった観光地域づくり法人(DMO)が平成30年1月に設立されたことにより、仙台都市圏を中心とした観光連携を進められ、観光交流促進にむけた取り組みが進められつつあります。さらに、令和4年～5年にかけて、国・県とも協働することにより、観光地「松島」としてふさわしい道路空間の構築に向けた交通社会実験を実施し、松島海岸地区の渋滞対策に加え、賑わいのある道路空間づくりを目指した取り組みも前進しつつあります。

このような観光を取り巻く外部環境の変化に対し、関係機関の取り組みとも適切に連携しながら、本町の観光を振興・成長させ、持続的な地域づくりに繋げていく必要があります。アフターコロナにおける国内外の観光需要の回復を最大に活かすためにも、前計画で設定した施策等に加えて、新しい着眼点や施策を充実することで、新計画へと見直しを図ります。



2. 観光に関わる社会動向

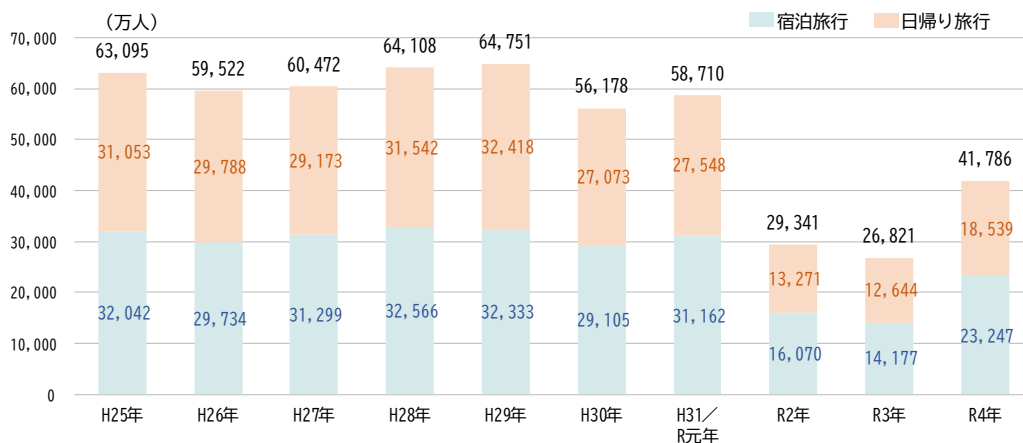
(1) 近年の観光に関わる社会動向の変化

①新型コロナウイルス感染症の影響に伴う観光ニーズの多様化

新型コロナウイルス感染症の影響に伴い国内旅行需要は大きく低下した一方で、コロナ禍を通じて、密を避けた個人・少人数旅行や県内旅行等の近隣地域内での観光、いわゆるマイクロツーリズムの増加、キャンプ・グランピングなどのアウトドア活動への需要の高まり、また観光地等に滞在しながら、リモートで働く「ワーケーション」など新たな観光スタイルが生まれました。

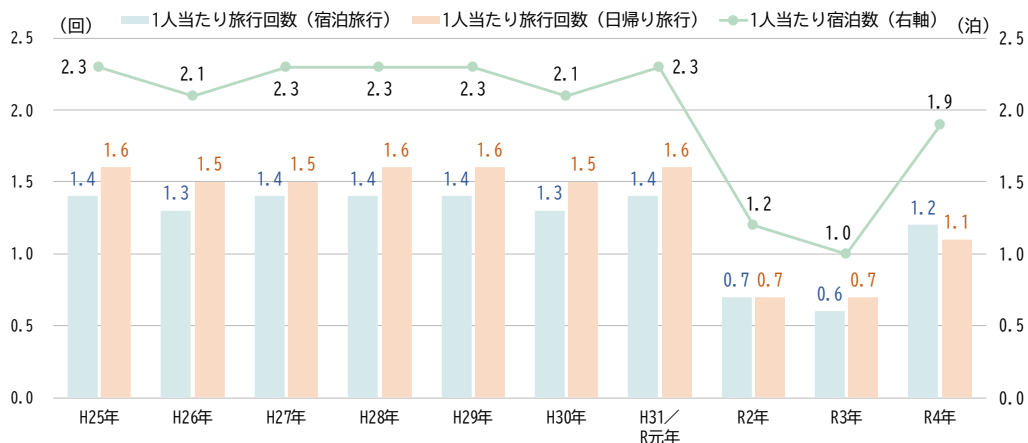
その他、多様化した観光ニーズに対応した観光形態として、「着地型観光」の需要も高まりました。着地型観光とは、旅行者を受け入れる地域がその地域の観光資源を基にした観光関連の商品開発や体験プログラムの企画・運営、また情報発信などを行う形態であり、エコツーリズムやアドベンチャーツーリズムなど特定のテーマに重点を置いた観光が全国で取り組まれています。

新型コロナウイルス感染症拡大前後を比較すると、日本人1人あたりの宿泊旅行回数はコロナ禍前と同水準程度まで回復している一方、国内の日帰り観光は回復途上にあります。今後の感染症等に強い観光地づくりに向けて、近隣地域内での旅行先(日帰りなど)として選ばれるためのメニューの充実が求められます。



図表-15 日本人国内宿泊旅行延べ人数、国内日帰り旅行延べ人数の推移

出典：令和5年版 観光白書



図表-16 日本人1人あたりの宿泊旅行、日帰り旅行の回数及び宿泊数の推移

出典：令和5年版 観光白書

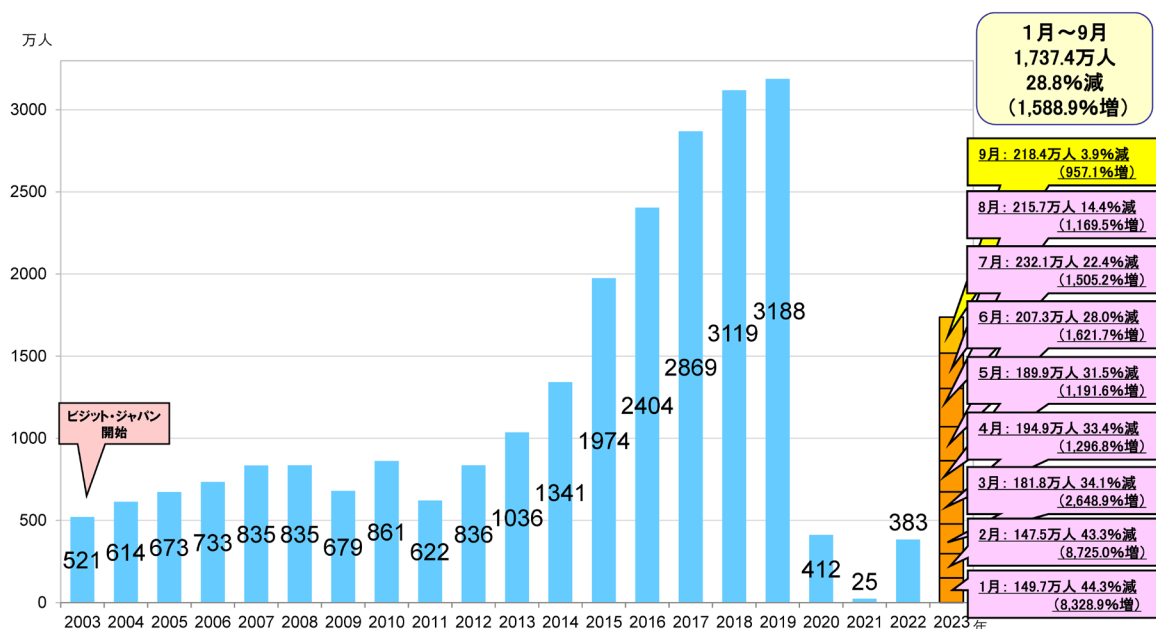
②インバウンド需要の高まり

令和2年に新型コロナウイルスの感染が拡大し訪日外国人旅行者は大幅に落ち込みましたが、日本政府が個人旅行の受け入れを解禁した令和4年10月以降、新型コロナウイルス感染拡大前の平成31年／令和元年と比べると単月の訪日外国人観光者数は毎月増加しており、順調に回復してきています。

訪日外国人旅行者による消費額の推移も同様に回復傾向にあります。これらの背景には、平均泊数が伸びたことのほか、円安、物価上昇等の影響もあると考えられます。インバウンド需要は社会情勢等の影響を受けやすく、特に今後は円安が収束した時の消費額の下振れが生じる可能性があります。その他のリスクとして、東京電力福島第一原発におけるALPS処理水の海洋放出による風評被害の影響などが考えられますが、令和5年10月の観光庁発表によると、中国をはじめとする諸外国からの旅行取りやめが相次ぐような状態はなく、処理水の海洋放出の影響は極めて限定的だという見解が示されています。

インバウンド需要の大きな傾向として、昭和39年の海外観光旅行自由化以降しばらくの間、多くの訪日外国人旅行者はパッケージツアーや団体旅行で日本を訪れていました。しかし、海外旅行の経験者が増えるに従い旅行目的も多様化し、不特定多数を対象としたパッケージツアーなどではなく、自分の目的に合わせた旅行をしたいという要望が高まり、FIT(個人旅行)が増えています。このような傾向の中で、リピーターの増加やFIT化によって訪日外国人旅行者の関心も多様化しており、日本でしか体験できない新たな発見・感動体験など様々な「コト消費」※へのニーズが高まっています。

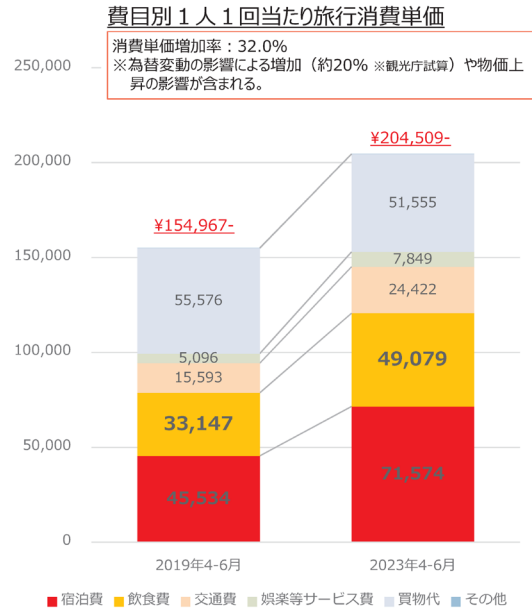
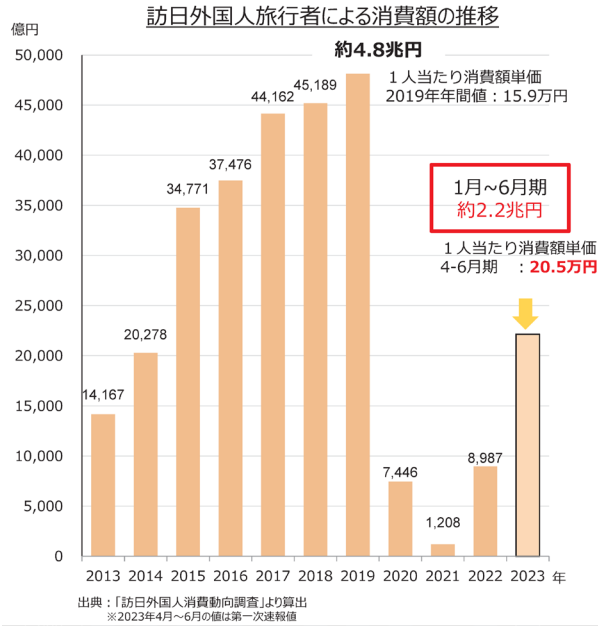
※コト消費：商品・サービスによって得られる経験や体験を重視した消費行動。



注意) 2022年以前の値は確定値、2023年1月～7月の値は暫定値、2023年8月～9月の値は推計値、%は対2019年同月比、()内は対前年同月比

図表-17 訪日外国人旅行者の推移

出典：観光庁長官記者会見資料（2023年10月）



図表-18 訪日外国人旅行者による消費額の推移及び費目別1人1回当たり旅行消費単価

出典：オーバーツーリズムの未然防止・抑制に関する関係省庁対策会議（第1回）資料（2023年9月）

③「持続的な観光」に対する世界的潮流への対応

観光振興の世界的な潮流として、「持続可能性(サステナブル/Sustainable)」がキーワードとなっています。国連世界観光機関(UNWTO)では、持続可能な観光を「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義しており、観光開発における経済、社会、環境の3つの側面の間で適切なバランスを取ることが求められています。

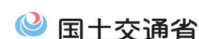
環境的側面からは地球環境に配慮した旅行が推進されるなど、国内のカーボンニュートラル化に向けた環境配慮型の観光が求められています。

また経済的側面では、官民一体となった観光産業の付加価値向上により、「稼げる」産業へと変革することで観光産業に人材を惹き付け、観光地としての持続可能な発展が求められています。

そして社会的側面では、訪問客を受け入れる側の自然、文化の保全と観光との両立が求められていますが、コロナ禍が収束傾向にある中、京都などの特定の観光地では訪問客が著しく増加し、市民生活や生活環境、景観などへ負の影響をもたらす「オーバーツーリズム(観光公害)」が問題となり、その対策が喫緊の課題となっています。

今後の観光地域づくりにおいては、3つの側面のバランスを適切にとり、「住んでよし、訪れてよし、働いてよし」の観光地域づくりが求められます。

地域において発生している課題の事例



<p>北海道美瑛町</p>  	<p><マナー違反> ○美しい風景の写真を撮るために農地(私有地)への立ち入りが多数発生。</p> <p><混雑> ○観光客の車両が集中することで交通渋滞が発生。また、生活道路や農道への違法駐車により、生活交通が妨げられている。</p>
<p>神奈川県鎌倉市</p>  	<p><混雑> ○鎌倉駅周辺等で多客期において観光客による混雑が発生。</p> <p><マナー違反> ○人気アニメの影響で有名な踏切周辺において、写真撮影のため多くの観光客が公道に滞留。 ○観光客によるごみの投棄等も問題となっている。</p>
<p>京都府京都市</p>  	<p><混雑> ○主要観光地へ向かうバスが増便されているものの、これを上回る乗客によりバスターミナルや車内が混雑。また、大型手荷物の持ち込みにより、円滑な運行に支障。</p> <p><マナー違反> ○芸舞妓を無断で写真撮影したり、車道まで広がっての歩行、私有地への無断立ち入り等の事例も発生。</p>

図表-19 国内におけるオーバーツーリズム(観光公害)事例

出典：観光立国推進閣僚会議(第21回)資料(2023年10月)



④観光DXの推進及び観光業におけるデジタル技術活用

デジタル技術の活用が観光分野でも期待されており、全国の観光地においてもその活用が検討されています。



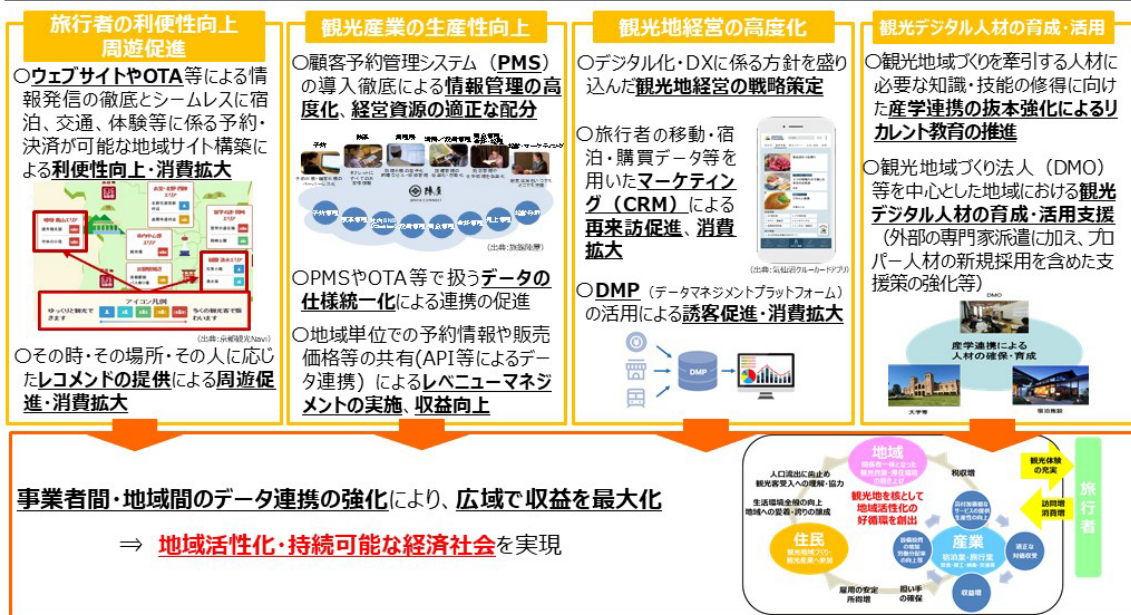
図表-20 デジタル案内やスマホアプリ等による多言語の道・まち案内イメージ

出典：国土交通省「2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～（令和2年6月）」

観光分野におけるDX推進



- 人口減少が進む我が国において、国内外との交流を生み出す観光は、地方創生の切り札。
- 観光分野のDXを推進し、旅行者の消費拡大、再来訪促進、観光産業の収益・生産性向上等を図り、稼ぐ地域を創出。
- 事業者間・地域間のデータ連携の強化により広域で収益の最大化を図ることで、地域活性化・持続可能な経済社会を実現。



図表-21 観光分野におけるDX推進の方針

出典：観光庁「観光DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」

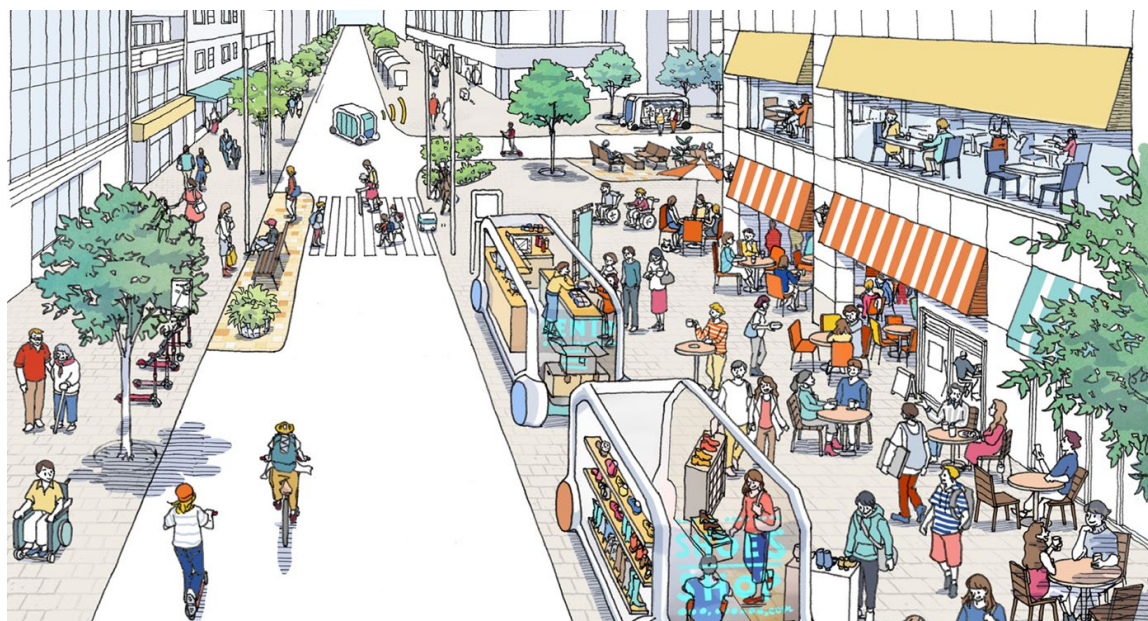
⑤「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりの取り組みの広がり

「まちなか」において、道路やその沿道の建物等の官民のパブリック空間をウォークブル[※]な空間に転換し、人中心の「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を創出していくことがまちづくりでは重要となっています。

本町では、観光客をはじめとした歩行者の安全で快適な通行・滞留環境の確保など、日本三景「松島」としてふさわしい道路空間の構築に向けた取り組みとして、令和4年10月に「第1回松島町交通社会実験」を行い、そこで明らかとなった主に3つの課題(事前周知・広報の強化、地域の観光事業者の理解促進と連携の強化、観光2次交通の最適化・多様化)への対応を図るべく、令和5年10月には「第2回松島町交通社会実験」を実施しました。

これらの社会実験では、国道45号の慢性的な交通渋滞の解消や大型車両の流入抑制を行うことにより、本町の主要な観光エリアとなっている国道45号沿道において良好な環境の創出を図っています。今後も観光客をはじめとした歩行者の安全で快適な通行や滞留空間の確保を図るため、ゆっくり安全に歩いて楽しむことのできる空間の形成が求められます。

※ウォークブル:「歩く」を意味する「walk」と、「できる」の「able」を組み合わせた造語で、文字通り「歩きやすい」「歩きたくなる」「歩くのが楽しい」といった語感をもつまちづくりの考え方。



図表-22 道路空間の活用イメージ

出典：国土交通省「2040年、道路の景色が変わる～人々の幸せにつながる道路～（令和2年6月）」



(2) 国内の主な観光政策動向

令和5年4月に新たに公表された「観光地域づくりに対する支援メニュー」において、コロナ禍による来訪者ニーズの多様化や、インバウンドの回復等に各地域が対応するための支援事業として、「面的地域価値の向上・消費創出事業」(経済産業省)や、「観光再始動事業」「地域一体型ガストロノミーツーリズム※の推進」「インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」(国土交通省・観光庁)が新規事業として追加されました。

また、既存の「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化」事業においては新たに「面的DX化」が補助メニューに追加されるなど、観光DX化に向けた補助事業の拡充等の動きも見て取れます。

※ガストロノミーツーリズム：その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しむ、その土地の食文化に触れることを目的とした観光・旅行形態。

図表-23 国内の主な観光政策 (1/2)

主な支援メニュー名	対象者	対象事業
■ コロナ禍による来訪者ニーズの多様化、インバウンドの回復等への対応支援メニュー		
持続可能な観光推進モデル事業	地方公共団体、DMO 等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 持続可能な観光の推進における優良モデルの構築 ■ 持続可能な観光の推進に意欲的な地域を対象とした人材育成
地域の担い手展開推進事業	民間事業者等 ※地域製品の販売等に携わる地域商社やこれから地域商社としての取り組みを始める者と金融機関等の支援者	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域製品の販売等に携わる地域商社やこれから地域商社としての取り組みを始める者と金融機関等の支援者が取り組む事業(ポータルサイト運営事業、セミナー事業)
持続可能性を核とした日本ならではの世界的価値の創出事業	地方公共団体・DMO・民間事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 【調査事業】サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりモデル事業 ・ 旅行者の知的好奇心を踏まえ、自然・文化・歴史・産業等の本質を味わいながら、地域への貢献を実感でき、観光利用と地域資源の保全を両立する体験等のコンテンツ造成 ・ コンテンツ料金に地域還元や資源保全費用を組み込む等の好循環の仕組みづくりが必須(例:体験料金の1%を地域の伝統文化の保全活動へ還元する仕組み等) ・ 地域の価値継承に寄与するような、旅行者と地域の関係構築・販路形成・受入体制強化 ■ 【補助事業】サステナブルな観光に資する好循環の仕組みづくりと連動した受入環境整備
面的地域価値の向上・消費創出事業 【新規】	民間事業者等 ※商店街等組織、商店街等組織と民間事業者の連携体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 専門家活用費用(面的伴奏支援を担う専門家の謝金・旅費 等) ■ 消費創出事業(回遊促進事業、体験事業、交流事業、ブランディング、情報発信強化 等) ■ 滞留・交流空間整備事業(空き地・空き店舗の利活用、歩道等の利活用 等)
観光再始動事業 【新規】	国・地方公共団体・DMO・民間事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 文化、自然、食、スポーツ等の多岐にわたる分野で、特別な体験や期間限定の取り組みの創出、イベントをフックとした誘客の促進、体験コンテンツの高付加価値化等を支援

図表-24 国内の主な観光政策 (2/2)

主な支援メニュー名	対象者	対象事業
地域一体型ガストロノミーツーリズムの推進 【新規】	DMO・民間事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の関係者が一体となって策定した「ガストロノミーツーリズム形成計画」に位置づけられた以下の取り組み ・ 食の専門家による助言指導 ・ 食のイベント実施 ・ 食のメニュー開発 ・ モニターツアー ・ 食の体験コンテンツ造成 等
インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業 【新規】	地方公共団体・DMO・民間事業者等(※地方公共団体との連携が必須)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 観光事業者が連携して地域に根差した観光資源を磨き上げる取り組み(旅行商品等の企画・開発、モデルツアーの実施等)
■ 観光DX推進・IT活用を含む支援メニュー		
地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化	地方公共団体・DMO等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 宿泊施設の高付加価値化 ■ 廃屋撤去 ■ 観光施設の改修 ■ 公的施設の観光目的での利活用のための民間活力の導入 ■ 実証実験 ■ 面的DX化 【新規】
ICT等を活用した観光地のインバウンド受入環境整備の高度化	地方公共団体・DMO・民間事業者等	<ul style="list-style-type: none"> ■ インバウンド受入環境整備の高度化(観光地における多言語対応、無料Wi-Fiの整備、近距離移動支援モビリティ整備など) ■ 観光振興のための無電柱化 ■ 先進的なサイクリング環境整備 ■ 歴史的観光威厳の高度化
■ エコツーリズム推進に関わる支援メニュー		
エコツーリズムを通じた地域の魅力向上事業	地域協議会(※市町村の参加必須)	<ul style="list-style-type: none"> ■ エコツーリズム推進全体構想の作成 ■ エコツーリズムの推進体制の整備、強化 ■ 資源調査 ■ エコツアーのプログラムづくり ■ ガイド等の人材育成 等



3. 松島観光が目指す将来像と実現に向けた課題

本町の観光業に深刻な影響を与えた東日本大震災からの復興に加え、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復、そして更なる観光振興を通じた持続的な地域づくりに向けて、松島観光が目指す将来像を以下のとおり設定します。

【松島観光が目指す将来像】

いきる観光地・松島

- ▶ 環境保全・環境問題を常に意識し取り組み、自然豊かな松島の再活性化を目指す。
- ▶ 古くから受け継がれた松島の歴史文化を守りつつ、新技術を活用したさらなる活性化を目指す。
- ▶ 町民との繋がりでつくる観光地と住環境のバランス良いまちづくりを目指す。

また、上記の将来像の実現に向けて、現在の松島観光における課題を以下の4点設定します。

(1) 国内外の観光客を魅了する「日本三景・松島」の魅力強化

松島を初めて訪れる来訪者の多くは、「日本三景」や、「日本遺産」などのネームバリューにより来訪していることが想定されます。松島の類まれなる多島海景観は、松島観光の「顔」であり、本町の観光で最も重要なコンテンツとなっています。

多島海景観の魅力を来訪者に十分楽しんでもらうため、松島湾をゆっくりと眺めることのできる眺望スポットへのアクセス手段や、ゆっくり・安全に歩いて楽しめる歩行環境の整備により、来訪者が松島の多島海景観を余すことなく楽しめる環境づくりが必要です。

(2) 様々なニーズへの対応による「松島ファン」獲得に向けた仕掛けづくり

松島を何度も訪れたい観光地として発展させていくためには、歴史や文化、自然環境、食など多様な資源を活用しながら、近年の多様化する旅行ニーズに対応し、何度訪れても新たな発見ができ、滞在時間を延長させるような仕掛けづくりが必要です。

また、SDGsなどの社会的要請を踏まえつつ、教育旅行の積極的な受け入れなど、これまで足を伸ばすことが少なかった場所にも関連するストーリーやプログラムを充実させる必要があります。

(3) 国際的な観光ブランドイメージの強化

日本としてインバウンドの需要が増加している中、本町は東北を代表とする国際観光都市としての観光ブランドイメージを確固たるものとするため、訪日外国人観光客が気持ちよく来訪し、居心地よく滞在できる環境整備、まちづくりを推進していく必要があります。

本町は、東北の玄関口である仙台市へ電車・車でともに1時間以内という良好な立地にあることから、訪日外国人の広域周遊観光における滞在拠点としての機能を充実していくことも必要です。

(4) 観光産業の持続的発展に向けた担い手確保及び生産性向上に繋がる施策展開

松島が観光地として持続的発展をしていくためには、観光地としての魅力向上に加えて、地域雇用の確保・安定や所得の増加、観光旅行者受入れへの理解・協力の促進、住民の誇り・愛着の醸成など、本町の産業としての観光の役割を改めて共有し、「稼ぐ力」を強化していく必要があります。

また、将来的な人口減少・高齢化に伴う観光業の担い手不足に対応していくため、デジタル技術なども活用しながらの観光分野における生産性向上も必要です。

4. 松島観光が担うSDGs達成に向けた役割

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、平成27年9月の国連サミットで採択された「令和12年(2030年)までに、誰一人取り残さない持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標」のことで、

17のゴールと169のターゲットから構成され、発展途上国のみならず先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、本計画においてもその方向性を踏まえ、施策を推進することにより、SDGsに揚げられた関連するゴール達成への寄与を図ります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【本計画に関連する主な目標】 ※目標8、12、14は観光分野を主なテーマとして明記

	質の高い教育を みんなに	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
	働きがいも 経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
	経済と技術革新の 基盤をつくろう	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
	住み続けられる まちづくりを	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
	つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
	海の豊かさを 守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
	パートナーシップで 目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化

第3章



観光振興ビジョン





1. 観光振興を進めるためのコンセプト・基本理念

計画の基本理念

感染症の影響からの回復など、外部環境の変化にも適切に対応しながら、観光地・松島としての魅力を高め、交流人口や関係人口の拡大を通して、持続的な地域づくりに取り組むため、以下のコンセプトを掲げます。

concept

三方良しの「力強い松島」の実現

- ホスピタリティ溢れる人々、町、地域がリピーターというファンを作り、「観光」を通じて松島人と国内外の人々を結び付ける交流を促す。その交流を時代の流れや一過性の流行に左右されない強固なものとし、環境変化に強い観光地をつくる。
- そのホスピタリティは、ハード・ソフトの両面から各種施策を行うことにより、松島の魅力を来訪者が五感で感じられる仕組みをつくる。
- 来訪者の満足と地域住民の日常生活が両立した観光地域づくりを推進することにより、住民の誇りや愛着を高める。
- 松島の自然資源・歴史などを生かした着地型旅行、産業としての観光振興など、持続可能な社会づくりに貢献する。
- こういった一連の取り組みにより、「訪れてよし・住んでよし・働いてよし」の松島を実現する。

2. 基本目標指標

本計画の目指すべき数値目標として、以下のとおり目標指標と目標値を設定します。

図表-25 数値目標

数値目標	基準実績値 (令和元年)	参考値 (令和4年)	目標値(令和15年)		備考
			回復目標	成長目標	
指標1: 観光入込客数	298万人	212万人	300万人	315万人	300万人 (H37(R7)) 【参考】長期総合計画
指標2: 宿泊客数	57万人	41万人	60万人	63万人	
指標3: 外国人宿泊客数	8,315人	866人	8,500人	9,000人	



3. 基本方針

(1) 「日本三景 松島」の魅力の再構築

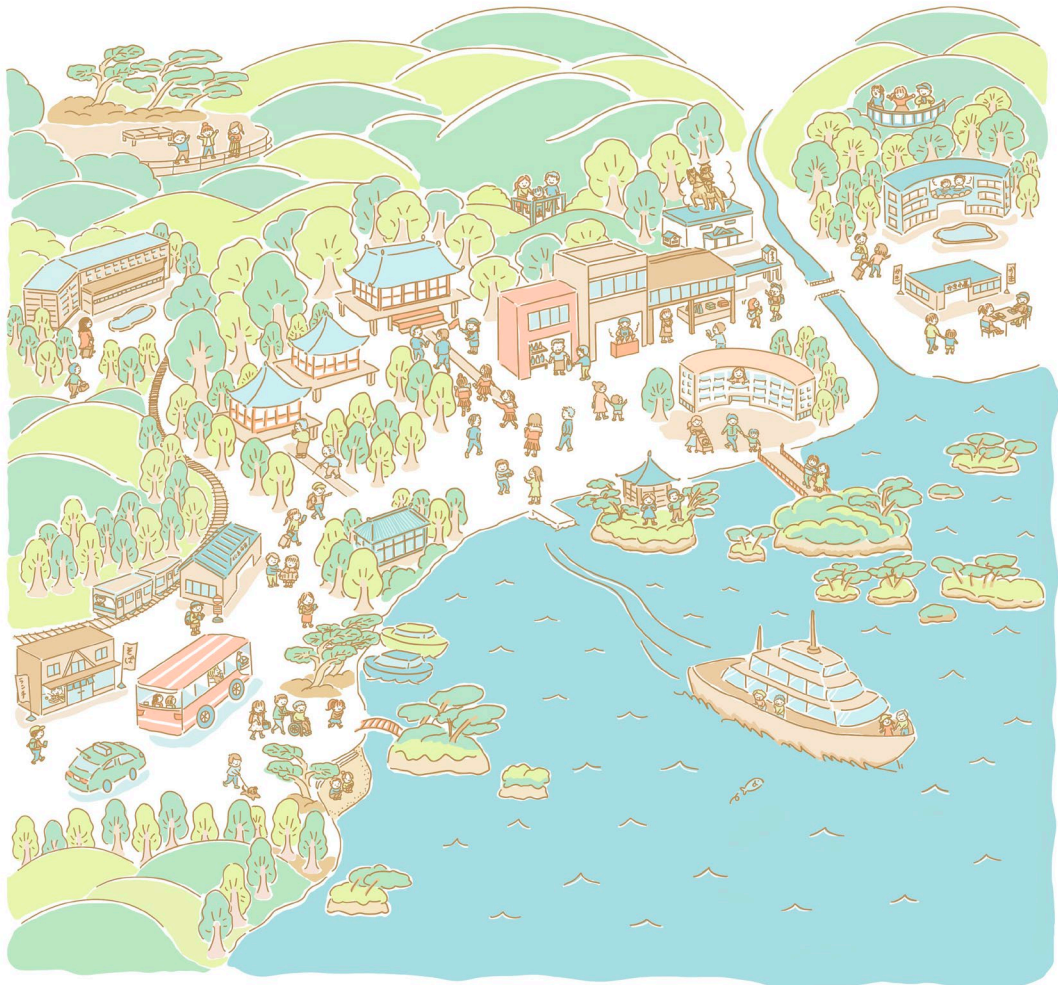
【メインターゲット】

松島を初めて訪れる観光客 ～松島の良好な第一印象の確立～

松島観光の原点であり世界に誇る観光資源である「多島海景観」や「歴史文化」の魅力を期待する来訪客に、期待以上の魅力を堪能してもらえるよう環境整備を図ります。

遊覧船の活用や松島海岸公園の整備促進等による松島湾の「近景・中景」の魅力向上・PRに加え、松島湾を一望可能な視点場の環境整備や維持管理をしていきます。さらに松島湾の「遠景」の魅力向上を図るために、誰もが気軽に眺望スポットへアクセス可能な動線の確保、案内サインの充実など、景勝地・松島の重層的な価値向上を推進していきます。

また、松島湾の保全活動による自然景観の保全・形成とともに、寺町区域の歴史的景観などのまち並みについては「松島町景観計画」に基づき、魅力ある景観形成を推進します。そして、それらの歴史的資源、観光資源をゆっくり・安全に歩いて楽しむことのできるまちづくりを進めていきます。



(2) テーマ・ストーリー性の高い体験価値の提供

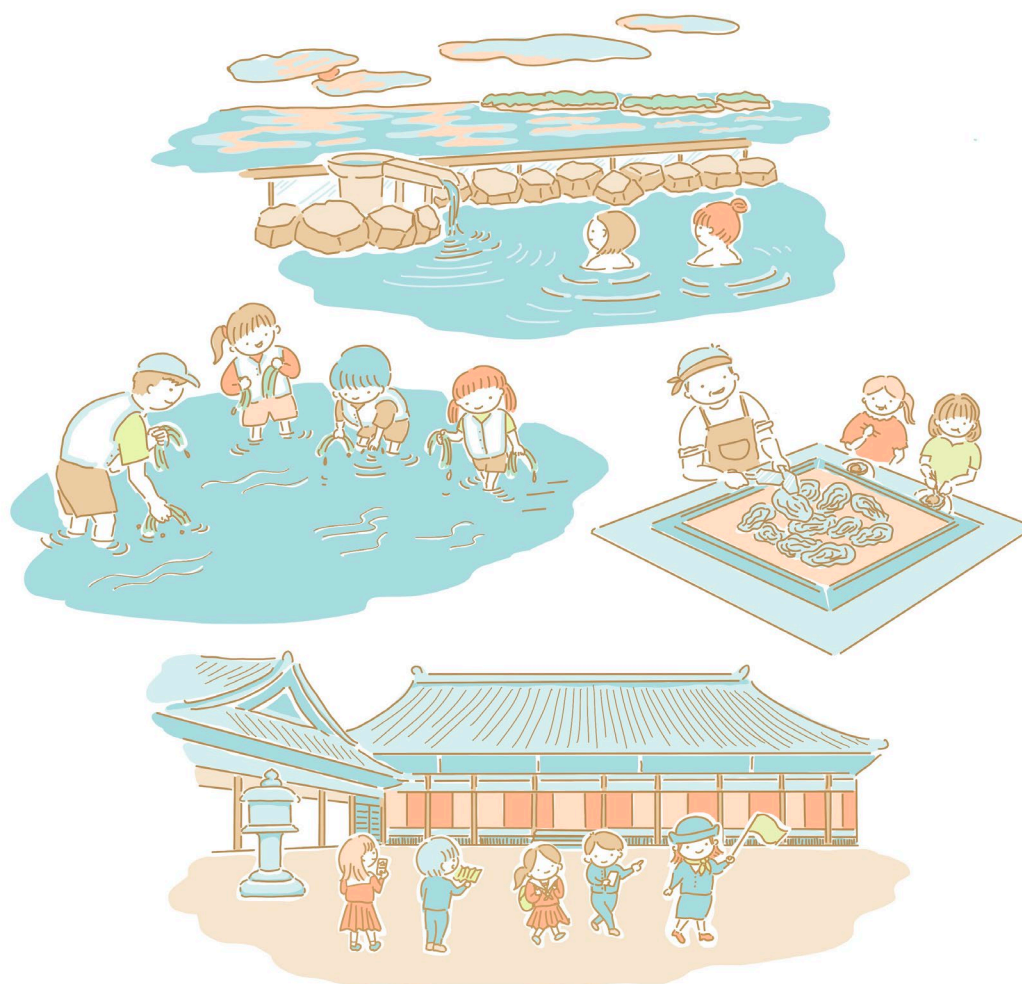
【メインターゲット】

松島を複数回訪れる観光客 ～何度も来たくなる松島の確立～

多様化する旅行ニーズに対応した様々なテーマ(食、自然環境、防災・減災、歴史文化など)の体験型観光メニューの充実を図り、マイクロツーリズムの需要取り込みや国内外のリピーター獲得及び滞在時間増加を目指します。

また、夜の松島の魅力づくりと合わせた朝の魅力の発信・PRにより、宿泊型観光コンテンツの充実を図ります。

加えて、観光業界と教育機関が連携して、子どもたちが松島の歴史や文化等の魅力を理解し、関心を持ち、伝えることができる機会の創出を図ります。特にSDGsの3つの領域である「環境、社会・文化、経済」を軸に子どもたちが自ら学び、将来まで大切にしたい・残したいものを探究・学習する機会創出につながる受入環境の整備を推進していきます。





(3) 国際的な観光ブランドイメージの強化

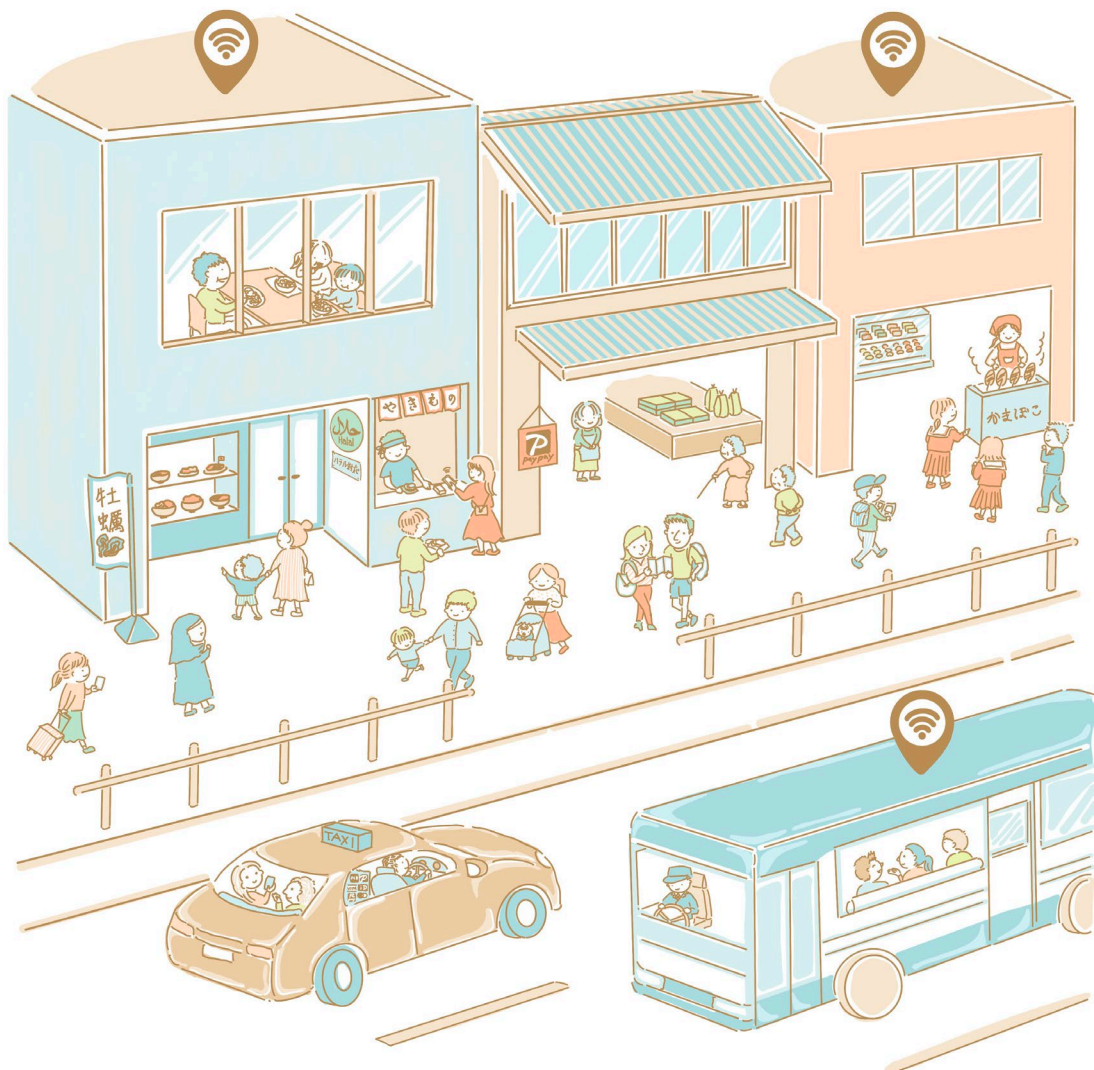
【メインターゲット】

訪日外国人旅行者 ～安心・快適な松島の実現～

本格的にインバウンドを回復させていくため、受け入れ体制を強化するとともに、松島の誇る歴史文化や四季折々の自然景観、イベント等の魅力をSNSなどで広く世界へ発信し、国際的な観光ブランドイメージの構築を図ります。

具体的には、多様な宗教的、文化的習慣を有する訪日外国人旅行者がストレスなく安心して観光できる環境を整えます。また、他の観光地の周遊拠点としても松島を利用してもらい、松島に長期滞在してもらえるよう、Wi-Fi環境の整備拡大や設置場所の周知、多言語パンフレットの充実などを通じて、観光情報へのアクセシビリティの向上を図ります。

さらに、アジア圏や欧米などの国外の都市との連携による観光交流を通じて、松島の魅力を情報発信するとともに、戦略的なプロモーション活動を推進します。



(4) 時代の変化に対応した新たな担い手づくり

【メインターゲット】

地域の住民・事業者 ～持続可能な松島の実現～

将来的な人口減少・高齢化に伴う観光業の担い手不足が想定される中、松島の観光業の持続的発展を進めるため、次世代の観光人材の育成や、観光産業の生産性向上、観光地経営の高度化等による「稼ぐ観光地域」づくりを推進していきます。

具体的には、町内事業者・産業間の連携促進や、人材育成の支援、また観光地域づくり法人(DMO)を核とした近隣市町村等との連携により、地域内の宿泊客増加、そして観光消費額の増加を図ります。

また近年、デジタル技術の急速な進展、観光形態のシフトにより、情報収集や発信、電子決済などあらゆる場面でのデジタル活用とともに、収集したデータの情報発信、マーケティングへの活用により、観光産業の生産性向上、観光地経営の高度化が全国的に進められています。松島観光においても、事業者の要望や課題等を踏まえながら、観光DXを推進し、時代の変化に対応した新たな担い手づくりを推進していきます。





【参考】旧計画におけるプロジェクトと本計画の基本方針との関連

新計画 【基本方針1】「日本三景 松島」の魅力再構築

【旧計画】 1 「多島海の魅力を守り伝える」プロジェクト

- ①感性を揺さぶる自然景観の保全・育成
- ②海の景色を楽しむ道と視点場づくり

【旧計画】 2 「ゆったり和む松島」プロジェクト

- ①島並み・山並みに溶け込むまち並み景観の創造
- ②ゆっくり歩いて休める空間の施設整備
- ③巧みな演出による既存資源の魅力の向上
- ④花のあるまち並みづくりの推進
- ⑤落ち着いた霧田気を守る交通環境の形成

【旧計画】 7 『松島』から『matsushima』へ」プロジェクト

- ④懐の深い松島めぐりの創成

新計画 【基本方針2】 テーマ・ストーリー性の高い体験価値の提供

【旧計画】 2 「ゆったり和む松島」プロジェクト

- ③巧みな演出による既存資源の魅力の向上

【旧計画】 3 「松島の魅力を一丸となって伝える」プロジェクト

- ③四季の松島を体感できるプログラムの充実
- ④幽玄な夜の松島とにぎわいの創出
- ⑤静まりかえった朝の魅力の再発見

【旧計画】 4 「ご当地・松島の味創造」プロジェクト

- ①感動を呼ぶ松島の味づくり
- ②「松島の食」を堪能させる仕掛けづくり

【旧計画】 5 「町民のくらす楽しみを伝える」プロジェクト

- ①松島での豊かなくらしの再発見
- ②松島の魅力の本質を探究
- ③「感動共有」を促す仕組みの構築

【旧計画】 6 「世界を魅了し東北を先導する松島」プロジェクト

- ④松島に息づく歴史文化資源の継承と活用

新計画 【基本方針3】 国際的な観光ブランドイメージの強化

【旧計画】 5 「町民のくらす楽しみを伝える」プロジェクト

- ③「感動共有」を促す仕組みの構築

【旧計画】 6 「世界を魅了し東北を先導する松島」プロジェクト

- ①国際的な観光ブランドイメージの強化
- ②多彩な情報発信と国際標準の受入れ体制の強化
- ③防災力の高い安全・安心の松島の形成
- ⑤松島から始まり松島に終わる広域観光ネットワーク

【旧計画】 7 『松島』から『matsushima』へ」プロジェクト

- ①世界の人々の憧れをかきたてるプロモーションの推進
- ②地域連携による松島・東北の観光交流の促進
- ③双方向の情報提供の充実
- ④懐の深い松島めぐりの創成

新計画 【基本方針4】 時代の変化に対応した新たな担い手づくり

【旧計画】 3 「松島の魅力を一丸となって伝える」プロジェクト

- ①町民の心温まる「おもてなし力」の向上
- ②まち全体で歓迎する場所・雰囲気づくりと習慣づくり
- ⑥くらしの中の隠れた魅力づくり

【旧計画】 7 『松島』から『matsushima』へ」プロジェクト

- ②地域連携による松島・東北の観光交流の促進

【旧計画】 8 松島を支える人づくり・松島を牽引する組織づくり

- ①観光を牽引する人づくりの推進
- ②観光協会、商工会、行政などとの連携強化と機能強化



第4章



観光振興プラン

第4章

観光振興プラン



前章で掲げたコンセプト及び4つの基本方針を実現するための施策を検討するにあたり、松島町の観光を取り巻く周辺環境について、内部環境(強み・弱み)・外部環境(機会・脅威)の整理を行いました。

図表-26 SWOT分析表

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	<p style="text-align: center;">強み(Strength)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国の特別名勝、県立自然公園に指定され、日本三景の一つとして、全国的な知名度のある景勝地である。 ・ 類まれな多島海景観は、松尾芭蕉に代表されるように古くからその時代の文人・墨客の感性を揺さぶった「憧れの地」としての歴史的背景・ストーリーがある。 ・ 歴史的資源として、瑞巖寺、五大堂などの国宝、国の重要文化財に指定される趣のある歴史的資源が点在している。 ・ 松島湾は国内で初めて「世界で最も美しい湾クラブ」の加盟湾となっている。 ・ 寺町区域の歴史的景観などが魅力の一つとなっている。 ・ 春は桜、夏はマリナクティビティ、秋は紅葉、冬は雪景色と四季を通じた魅力がある。 ・ 松島流灯会海の盆や瑞巖寺大施餓鬼会、松島灯籠流し、松島かき祭り、松島紅葉ライトアップなどの著名なイベントが多くの来訪者を集めている。 ・ JR松島海岸駅を中心に瑞巖寺、五大堂などの社寺をはじめ、観光遊覧船、松島離宮などの観光施設が集まっている。 ・ 教育旅行による宿泊客数が増加傾向にあり、特に関東を出発地とした教育旅行が多い。 ・ 様々な価格帯の宿泊施設が多く立地している。 ・ 仙台都市圏に位置しており、飛行機や新幹線、高速道路など広域交通条件に恵まれている。 ・ DMO設立により、民間レベルでのマネジメント機能が始動している。 	<p style="text-align: center;">弱み(Weakness)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「日本三景 松島」を代表する多島海景観を見渡せるビュースポットまでのアクセス手段や案内・PR等が不足している。 ・ 世界的な漁場である三陸沖や内水面漁業が盛んな南三陸、クロマグロの水揚げ日本一(2022年)の塩釜港が近接しており、「松島=食」のブランドイメージが定着しにくい。 ・ 観光エリア内における交通環境が不足している。 ・ 個店が多く、クレジットカードや電子決済に未対応のお店が散見される。 ・ 特に、冬季や夜間の誘客につながる観光コンテンツが弱く、観光入込数が少ない。
外部環境	<p style="text-align: center;">機会(Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウィズコロナ、アフターコロナに伴う国内旅行・インバウンド需要が増加している。 ・ 円安の進行に伴うインバウンド需要が増加している。 ・ コト消費などの体験型、高価格帯の国内旅行の需要が増加している。(量より質、モノより時間、体験) ・ 女性や高齢者の消費が活発化している。 ・ 国の「地方創生」「観光立国」に向けた政策の潮流(観光DX、SDGsなど、新しい政策課題への対応)がある。 ・ SNSなど個人からの情報ネットワークが成熟している。 ・ 三陸沿岸自動車道やその他復興道路・復興支援道路の開通による、松島海岸ICへのアクセス性が向上している。 ・ 仙台空港、船舶の就航頻度が増加している。 ・ 国による「ウォークアブルなまちなか形成」が推進されている。 	<p style="text-align: center;">脅威(Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症に代表される感染症への対応が求められる。 ・ 頻発する災害への備え・対応が求められる。 ・ 人口減少に伴う将来的な国内旅行市場の縮小が予測される。 ・ 人口減少及び少子高齢化に伴う将来的な担い手不足が予測される。



前項における内部環境(強み・弱み)・外部環境(機会・脅威)の整理も踏まえた本観光振興プランの施策体系については、以下のとおりです。なお、各施策内容については次頁以降に記載します。

【基本方針1】「日本三景 松島」の魅力再構築



基本施策1：多島海の魅力構築のための環境整備

- ①自然景観の保全、形成 ②海の景色を楽しむための道づくり ③視点場回遊の仕組みづくり (新規)
- ④回遊を促すための公共施設の適切な管理・更新 (新規)

基本施策2：ゆったり和めるまち並み景観の形成

- ①島並み、山並みに溶け込むまち並み景観の創造 ②巧みな演出による既存資源の魅力向上や環境美化

基本施策3：ゆっくり歩いて楽しめるまちづくりの推進

- ①ゆっくり歩いて休める歩行者空間の整備 ②ユニバーサルな環境整備の促進 (新規)

【基本方針2】テーマ・ストーリー性の高い体験価値の提供



基本施策1：歴史・文化ツーリズムの推進

- ①松島の歴史・文化資源を活用した体験メニューの充実 ②歴史文化の継承と文化財の保護・活用の推進
- ③教育旅行受け入れ体制の構築 (新規)

基本施策2：自然体験型観光メニューの充実

- ①来訪者参加型の自然再生プロジェクトの推進 ②四季の松島を体感できるプログラムの充実

基本施策3：松島の味づくりの推進

- ①地産地消による松島の味づくりの推進 ②松島の食が堪能できる仕掛けづくり

基本施策4：宿泊型観光コンテンツの充実

- ①幽玄な夜の松島とにぎわいの創出 ②静まりかえった朝の魅力の再発見・創出

【基本方針3】国際的な観光ブランドイメージの強化



基本施策1：インバウンド観光客の受け入れ体制の構築

- ①多様な宗教的、文化的習慣の受け入れ体制の構築 (新規)
- ②訪日外国人観光客の観光情報へのアクセシビリティ向上 ③災害時に来訪者を確実に守る防災機能の強化

基本施策2：国内外の交流を通じた松島の魅力の発信

- ①世界の人々の憧れをかきたてるプロモーションの推進 ②地域連携による松島、東北の観光交流の促進
- ③松島町に関連性のある外国文化のPRや教育イベントの開催 ④国内外のメディアの誘致 (新規)

【基本方針4】時代の変化に対応した新たな担い手づくり



基本施策1：松島を支える人・組織づくりの推進

- ①観光を牽引する人づくりの推進及び起業家・創業家の活動支援 ②町民の心温まる「おもてなし力」の向上

基本施策2：「稼ぐ観光地域」の体制構築に向けた支援促進

- ①観光関連団体及び産業界間の連携強化 ②松島の新商品開発及びイベント等の開催支援
- ③近隣市町村・交流都市との連携による観光資源の高付加価値化 (新規)

基本施策3：観光DXの推進

- ①観光マーケティングの導入推進 (新規) ②来訪者の利便性向上・周遊促進に資する情報発信の提供 (新規)
- ③観光デジタル人材の育成・活用 (新規)

1. 基本方針1：「日本三景 松島」の魅力再構築

(1) 基本施策1：多島海の魅力構築のための環境整備

松島の景観は、八百八島といわれる海に浮かぶ多くの島々と緑の松、青い海とが織りなす箱庭的な美しさにその魅力があり、「日本三景松島」を語る上で欠かせません。その景色を期待し、多くの方が訪れます。

そのため、松島湾をきれいにする取り組みや、多島海の景色を楽しめる視点場づくり、道づくりなどにより、松島らしい景観の形成を目指します。こうした良好な自然環境や多彩な歴史的資源を有することが松島の強みと捉え、その魅力を活かす取り組みを推進します。

基本事業① 自然景観の保全、形成

湾は松島を代表する良好な自然景観であり、観光遊覧船からの海と松林が生育する島々を楽しめる場であるため、その美しい海、多島海景観の保全・育成に努めます。

また、日本三景の景観の魅力を高めるため専門家と協働し、保全松林の保護・育成に継続的に取り組むとともに、貴重な松島の財産を守るための松くい虫防除に関わる取り組みや、アマモ再生事業等による海の世界・景観保全活動の推進を図ります。



図表-27 西行戻しの松公園から望む松島湾



図表-28 湾の景色を楽しみながら行う清掃活動

【取り組み例】

- ・ 良好な自然景観の保全・育成
- ・ 島の松林や海のアマモなどの環境保全活動の推進
- ・ 小中学校における環境教育や、大学・研究機関等と連携した自然保護活動の展開
- ・ 既存眺望スポットの適切な維持管理及び新スポットの整備

基本事業② 海の景色を楽しむための道づくり

松島湾の景色を楽しみに訪れる観光客等を受け入れるため、国道45号の人が往来する歩道の拡幅などの改良整備、また利府町境より双観山入り口までの区間における歩道の設置の検討、及び歩道整備済み区間においても適切な維持管理などの道路整備の充実を推進します。

【取り組み例】

- ・ 歩道の設置・拡幅などの改良整備や、道路の維持管理について道路管理者へ要望
- ・ 歩行者優先の道路(歩行)空間の整備検討



基本事業③ 視点場回遊の仕組みづくり【新規】

四大観巡りなど、歩いては廻ることが難しい観光ポイントを、来訪者自らがタクシーあるいはパーソナルモビリティ※で巡りたくなる、モデルコースの充実を図ります。

また、観光中心地の混雑解消や情緒ある歩行空間の創出のため、リアルタイムで空き駐車場が分かるデジタルマップ等のサービスを活用するなど、観光客へ周辺駐車場の利用を促し、観光中心地への自動車の流入抑制を図ります。

なお、観光交通における地球環境への配慮として、グリーン
スローモビリティ※や、パーソナルモビリティ※の将来的な導入に向けた検討も行います。



図表-29 グリーンスローモビリティ

※パーソナルモビリティ：街中での近距離移動を想定した1～2人乗りの小型の低速移動手段（ハンドル型電動車いすや電動車いす、電動アシスト付き自転車、電動キックボードなど）。

※グリーンスローモビリティ：時速20km未満で公道を走ることができる4人乗り以上の電動車を活用した小さな移動サービス。

【取り組み例】

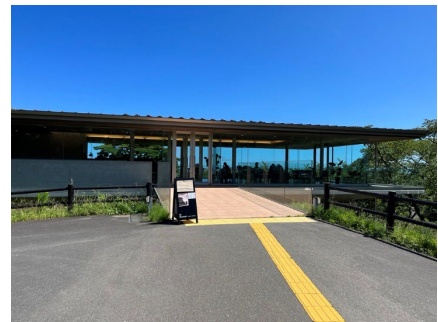
- ・ 歩いて回ることが難しい観光ポイントのモデルコースの充実
- ・ 環境負荷の小さい交通手段の将来的な導入に向けた検討
- ・ 遊覧船や公共交通機関が連携した視点場を巡るパッケージ商品の企画調整
- ・ 町営駐車場のフリンジ駐車場※としての有効活用

※フリンジ駐車場：観光中心地への自家用車の流入を抑制するため、観光中心地の縁辺部に位置する駐車場での公共交通への乗り換え、あるいは徒歩への切り替えを推進

基本事業④ 回遊を促すための公共施設の適切な管理・更新【新規】

観光系施設5箇所（観瀾亭・松島博物館・明月庵・双観荘・松島パノラマハウス）とその他施設6箇所（西行戻しの松公園公衆トイレ・西行戻しの松公園防災器具庫脇公衆トイレ・瑞巖寺総門前公衆トイレ・三十刈駐車場公衆トイレ・双観山公衆トイレ・富山観音公衆トイレ）について管理計画の作成を行い、適切な設備・施設の更新を図ります。

また魅力ある施設として継続的に活用していくため、公共施設の民間事業者等への管理委託等、民間活力の導入についても検討を行います。



図表-30 松島パノラマハウス

【取り組み例】

- ・ 観光系施設やその他施設の管理計画を作成
- ・ 観光系施設における民間活力導入可能性の検討

(2) 基本施策2：ゆったり和めるまち並み景観の形成

松島は、美しい景観やまち並みをゆったり観光してもらうことで、心から感動を与えることができる土地であり、ゆったりできる環境を積極的に整えていく必要があります。

そのため、より美しくみえるように看板や建物などの大きさや色などの調和に配慮し、松島の景観を活かして、ライトアップ等による趣のある演出を行い、しっとりと落ち着きのある松島の雰囲気づくりを推進し、ゆったり和む観光ができる環境整備を推進します。

基本事業① 島並み、山並みに溶け込むまち並み景観の創造

日本三景松島の景観の継承として、恵まれた自然環境や景観を町民と共有し、維持・継承するため、景観に関わる計画の適宜見直しを行うとともに、町民との協働による景観づくりに継続して取り組みます。

また、島並み・山並みに溶け込む良好なまち並み景観の形成を目指して、飲食店・土産物店などにおける看板類の統一促進や、景観計画に即した規制・誘導を図ります。



図表-31 寺町区域のまち並み

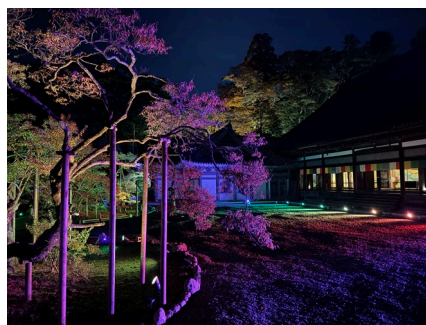
【取り組み例】

- ・ 景観に関わる計画等の適宜見直し
- ・ 景観計画に即した規制・誘導(協働による景観づくり)の実施

基本事業② 巧みな演出による既存資源の魅力向上や環境美化

現在行っているライトアップなど、演出の専門家よりアドバイスをもらい更に魅力あるものにすることや、そのイベントに合わせた公共空間におけるライトアップの許可や支援を継続的に取り組んでいき、より人々を惹きつける夜の魅力向上を図ります。

また、景観に配慮し自然や歴史の資源を活かしながら、松島らしい来訪者へのおもてなし空間をつくっていくために、清掃美化活動の充実や身近な空間の環境美化を推進します。



図表-32 紅葉ライトアップ(瑞巖寺)

【取り組み例】

- ・ ライトアップイベントの継続実施・高付加価値化
- ・ 夜間のイベント実施による宿泊需要や消費の誘発
- ・ 身近な空間の環境美化を推進



(3) 基本施策3：ゆっくり歩いて楽しめるまちづくりの推進

JR松島海岸駅周辺の観光中心地には、瑞巖寺や円通院、五大堂などの社寺をはじめ、観瀾亭や雄島などの観光名所、また土産店や飲食店が軒を連ねており、これらの施設・店舗を来訪客及び住民がゆっくり安全に歩いて回れるようにするため、歩行者空間の再構築を推進していくことが必要です。

また、老若男女・障がいの有無・国内外からの来訪客を問わず、歩いて楽しめる観光地とするため、ハード・ソフト両面におけるバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進します。

基本事業① ゆっくり歩いて休める歩行者空間の整備

ゆっくり安全に歩いて楽しめる歩行者空間の整備を推進するため、国道45号の通過交通の減少、慢性的な渋滞の解消に向けた関係機関への継続的な要望・調整を図るとともに、回遊時の休憩スペースを各所に設けるなど、ホスピタリティある空間づくりを考案・推進します。

また、静寂な雰囲気を保ち、ゆっくり歩いて楽しい街路とするため、観光道路と生活道路の区分や、物品搬入を裏道から行うなど、安全・安心で車の騒音がない心地よさの演出も検討します。さらに信号機の数などの調整も合わせて検討します。

【取り組み例】

- ・ 回遊時のホスピタリティある空間づくりを考案・推進(休憩スポットの機能向上)
- ・ 観光交通、生活交通、荷捌き交通の動線の整序化の検討

基本事業② ユニバーサルな環境整備の促進 **【新規】**

できるだけ多くの人を使いやすいように、製品や建物・環境をデザインするというユニバーサルデザインの考え方を基本として、公共施設の更新時や、事業所や施設・店舗などの新装や改装時にユニバーサルデザインを提案・促進します。

また、既存の案内板の効果を検証し、来訪者が自身の状態に合わせて自由に観光コースを選ぶことができる案内板の設置を検討します。案内板には、外国語表記の他、順路や所要時間、トイレやバリアフリーなどの利便施設の情報をわかりやすく記載するなど考慮します。

特に、玄関口となるJR松島海岸駅及び松島駅から観光施設に至るまでの一連の空間をユニバーサルデザイン化・バリアフリー化することにより、快適な滞在環境づくりを進めます。

加えて、観光協会や商店街と連携し、災害時における来訪者の安全確保や施設開放、防災用品の備蓄など、海岸地区の町民や来訪者を安全に最寄りの避難場所に避難できるよう誘導體制の確保を促進します。

【取り組み例】

- ・ 公共施設や民間施設におけるユニバーサルデザイン化の推進
- ・ 案内板の内容検証と記載内容の変更検討
- ・ 災害時の避難場所への誘導體制の確保の促進

2. 基本方針2：テーマ・ストーリー性の高い体験価値の提供

(1) 基本施策1：歴史・文化ツーリズムの推進

松島が誇る歴史・文化的資源を活かして、来訪者が松島の歴史の深さに触れる機会を提供することにより、松尾芭蕉をはじめとした当時の歌人・墨客等が憧れた土地の魅力を知り、体験し、学ぶ取り組みを推進します。

また、上記の取り組みにより後世に伝えるべき貴重な歴史的建造物を、観光に活かしながら当時の文化と共に継承していくことを推進します。

基本事業① 松島の歴史・文化資源を活用した体験メニューの充実

松島の歴史の深さに町民、来訪者が触れる機会として、寺院や文化財などの施設を活用したイベントや、歴史勉強会などを開催するとともに、座禅体験などの体験メニューを拡充していくことを推進します。

また、歴史的に松島にあこがれた人々の思いを追体験する企画を立案することにより、歴史的価値の再認識など松島の見せ方を変えていくことに取り組みます。

加えて、イベントや講習会の開催などにおける松島博物館の利用や展示内容の工夫により、松島の歴史を学ぶ観光資源として博物館の魅力向上を図ります。



図表-33 瑞巖寺大書院での写経体験

出典：瑞巖寺

【取り組み例】

- ・ 寺院などの施設を活用したイベントの提供
- ・ 歴史や文化に触れられる体験型メニューの推進

基本事業② 歴史文化の継承と文化財の保護・活用の推進

瑞巖寺・五大堂・観瀾亭など後世に伝えるべき貴重な歴史的建造物や、歴史的に著名な偉人の松島との関わりや逸話、また歴史的な地名などを観光に活かしながら当時の文化と共に継承します。

また、雄島は先人たちの想いを垣間見ることのできる霊場として歴史的価値のある島であり、建造物や偉人とともに雄島を語り継ぎ、観光の中核として位置づけを図ります。

加えて、日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」について、公式SNSの開設や、商品開発・販売等が進められており、今後も継続的に構成市町との連携による積極的なPRを推進していきます。



図表-34 日本遺産「政宗が育んだ“伊達”な文化」ロゴマーク

【取り組み例】

- ・ 歴史的建造物や偉人、島などを観光に生かしながら当時の文化と共に継承
- ・ 日本遺産政宗が育んだ“伊達”な文化の積極的PR
- ・ ツアーガイド(ボランティアガイド)の育成



基本事業③ 教育旅行受け入れ体制の構築【新規】

松島が有する歴史・文化等の魅力や東日本大震災から学ぶ防災、SDGsの3つの領域である「環境、社会・文化、経済」を軸に子どもたちが自ら学び、将来まで大切にしたいや残したいものを探究・学習する機会として、教育旅行の受け入れを推進していきます。

また、学校側のニーズにあった教育旅行を提供できるよう、観光業界や他の市町村と連携しながら、松島も含めた広域的な教育旅行コース設定やコンテンツ整備を図ります。



図表-35 教育旅行の様子

【取り組み例】

- ・ 東日本大震災を伝える取り組み(語り部育成、情報掲示など)の推進
- ・ 教育旅行の積極的受け入れ

(2) 基本施策2：自然体験型観光メニューの充実

松島湾の豊かな景観は、様々な自然の役割、そしてそこに関わる人々や文化と密接な関係にあります。東日本大震災の被害で失われた松島湾の自然環境の再生を通じて、地域住民と来訪者の交流を促進し、松島湾の景観を持続可能なものにするための取り組みに来訪者も参加していく仕組みづくりを促進します。

また、滞在時間に応じた複数の体験型観光メニューを充実させるとともに、短い滞在時間では全てを堪能しきれない「また来たい」と思わせる魅力あるプログラムを構築します。

基本事業① 来訪者参加型の自然再生プロジェクトの推進

来訪者が松島の歴史や文化等の魅力を理解し、関心を持ち、伝えることができるようになってもらう機会の1つとして、松島湾の自然の役割について学ぶ環境学習プログラムの充実を推進します。

松島湾には、アマモやアカモクなどの海草(海藻)が茂り、多種多様な生物を育む「海のゆりかご」とも呼ばれる藻場がありました。東日本大震災に伴う津波により、その99%が流失してしまいました。

アマモ場再生活動など豊かな松島湾に戻す活動を観光プログラムや環境教育の一つとして位置づけることにより、地域住民や来訪者が一体となって松島湾の景観を持続可能なものにしていくことを図ります。



図表-36 再生活動に向け
アマモを採取するダイバー

【取り組み例】

- ・ 松島湾の自然の役割について学ぶ環境学習プログラムの充実
- ・ 環境をテーマとした教育旅行商品の開発

基本事業② 四季の松島を体感できるプログラムの充実

既存のさまざまな観光資源を活かし、四季を通じて何度でも訪れたいような観光プログラムの充実を推進します。特に福浦島は県内では希少な植物が生息しているので、学術的な調査のもと、自然公園として福浦島を、教育旅行などの観察学習の場、または体験学習の場として活用し、PRを図ります。

また、子どもの時の楽しい体験はいつまでも覚えていることから、子どもも大人も楽しめる体験型の企画を立案し実践することを図ります。



図表-37 自然体験の様子

【取り組み例】

- ・ 福浦島での四季折々の自然観察体験プログラムの充実
- ・ 観察学習の場、または体験学習の場としてのPR



(3) 基本施策3：松島の味づくりの推進

来訪者ニーズの1つとして、「松島の美味しい食べ物」があります。

そのため、地産地消による「松島の味」の質の向上と、若者や他業種が連携する等、松島ならではの感動を呼ぶ美味しいメニューの開発に取り組みます。そして、来訪者に「また来たい、また食べたい」と思ってもらえる「松島の味」づくりを推進します。

基本事業① 地産地消による松島の味づくりの推進

生産者・商工業者・観光業者・行政等が一体となって地産地消や食育に繋がる取り組みを行うとともに、若年層や他業種も参加しやすい農業・水産業の高付加価値化へ町民が参画できる仕組みに向けた取り組みを行います。

また、松島らしい料理・土産品・地場製品の提供・開発や、高付加価値食材による一品提供の開発など、新たな「松島ならではの」のご当地料理のイメージ形成を推進します。



図表-38 かき小屋（上）松島とまと（下）

【取り組み例】

- ・ 6次産業化の推進による產品の高付加価値化
- ・ 「松島ならではの」のご当地料理のイメージの形成及び名物となる商品開発（SNSに発信される“映えグルメ”など）
- ・ 商品開発などに様々な業種や町民が参画できる仕組みづくり

基本事業② 松島の食が堪能できる仕掛けづくり

地場産品を活用したイベントの企画・運営や、松島の「食」のイメージ戦略を展開し、松島でしか食べられないものの提供や質の向上を図り、松島の「食」のイメージアップとブランド化を推進します。

そして、その地場産品を取り扱う「まつの市」、「産業まつり」、「瑞巖寺杉道市」を来訪者誘客の目玉イベントとして機能するように支援を行い、主要観光地である海岸地区から他地区への来訪者の流動を促進します。



図表-39 産業まつり

【取り組み例】

- ・ 松島の「食」のイメージアップ、ブランド力強化に資するイベント開催
- ・ 産業まつり等、海岸地区と他地区が連携した町内の人の流動の創出
- ・ 食べ歩き環境の充実

(4) 基本施策4：宿泊型観光コンテンツの充実

コロナ禍の収束に伴い、宿泊を伴う国内旅行需要は回復するものと考えられることから、近隣市町村との連携を含めて、本町における来訪者の滞在時間を伸ばし宿泊してもらうために、夜の松島の魅力づくりと合わせた朝の魅力の発信・PRにより、宿泊型観光コンテンツの充実を図ります。

基本事業① 幽玄な夜の松島とにぎわいの創出

松島の月は、松尾芭蕉が「奥の細道」を旅した最大の目的と言われている他、観瀾亭において代々藩主がお月見場所として利用していた歴史的背景から、月は松島湾の貴重な観光資源であると言えます。

昼の観光だけではなく、夜を楽しむ観光プログラムを充実することにより新たな需要を掘り起こし、滞在型観光に結びつけることを図ります。また紅葉のライトアップなど夜の松島を楽しんでもらう演出と合わせて、イベント時における飲食店・物産店の営業時間延長などの取り組みにより、一体的な夜のにぎわいを創出していく取り組みを推進します。



図表-40 月と松島湾

【取り組み例】

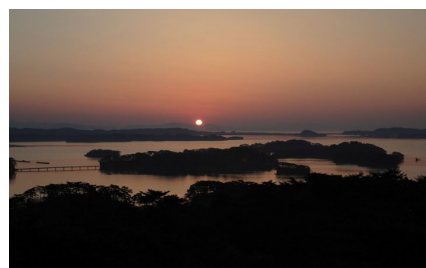
- ・ 滞在型観光に結び付けるための夜の観光プログラムの充実
- ・ ナイトタイムエコノミー(飲食・娯楽など)の推進・充実
- ・ 物産店などの営業時間延長にむけた調整
- ・ 宿泊施設と連携した夜間外出の仕組みづくり

基本事業② 静まりかえった朝の魅力の再発見・創出

昼間の喧騒から想像できない朝の魅力を楽しむ観光プログラムの充実を推進します。

「朝日」を眺めることのできる観光スポットでの松島を体験できるイベントや、瑞巖寺での座禅体験と組み合わせた松島ならではの早朝を楽しむイベントの企画運営を推進するとともに、「朝日」と松島温泉における朝風呂の組合せなど、既存の観光資源を組合せた観光PRなど、「早朝の松島」のブランド化を推進します。

また、早朝散策ルートやランニングマップの作成、早朝ランニングに合わせたホテルなどでの「朝食・入浴プラン」の設定など、早朝の散策やランニングなど松島に宿泊することを楽しめるような取り組みについても検討します。



図表-41 西行戻しの松公園から見るご来光
出典：松島観光協会 HP

【取り組み例】

- ・ 朝日と松島温泉等を組み合わせた観光PR
- ・ 寺院と連携した朝活プログラム(座禅、朝のお勤めなど)の充実
- ・ 早朝の散策やランニングなど、松島に宿泊して楽しめるコンテンツの検討



3. 基本方針3：国際的な観光ブランドイメージの強化

(1) 基本施策1：インバウンド観光客の受け入れ体制の構築

新型コロナウイルスの感染拡大により落ち込んだインバウンド観光客の本格的な回復に向けて、世界に認められた松島湾の美しい景観の魅力を存分に伝える観光・体験メニューの開発や、湾や多島を保全・活用・育成する取り組みを推進します。また、それらをSNSなどで広く発信することで、国際的な観光ブランドイメージの強化を図ります。

松島を訪れたインバウンド観光客が安心・快適に周遊、滞在、観光できるよう、多言語に対応したパンフレットの作成や Wi-Fi 環境の整備、宗教的、文化的な多様性の受入体制の構築などを推進します。これらの取り組みを通じて、松島に長期滞在してもらい、他の観光地の周遊拠点となる「お宿」としての役割を果たし、世界を魅了する松島の実現を目指します。

基本事業① 多様な宗教的、文化的習慣の受け入れ体制の構築【新規】

多様な宗教的、文化的習慣を有する旅行者がストレスなく安心して観光できる環境を整え、受入を積極的に行います。ヴィーガン※やハラール※など、フードダイバーシティ※(食の多様性)に関しては、飲食店や宿泊施設などへの理解促進を図り、協力事業者を募ります。具体的には、「ムスリム※おもてなしガイドブック」や「飲食事業者等におけるベジタリアン※・ヴィーガン対応ガイド」の周知により、フードダイバーシティに配慮した受入環境の充実を図るとともに、対応している飲食店や宿泊施設について旅行者に発信するなどの情報提供に取り組みます。また、プレイヤーールーム(祈祷室)の機能確保など、施設面での環境整備も合わせて充実します。

※ヴィーガン:環境や動物保護を目的として、肉・魚介類などの動物性食品や乳製品、卵などを食べない人々。

※ハラール:イスラーム法において合法とされている食べ物や飲み物、その他日常生活のあらゆる場面に関わる行為や物のこと。

※フードダイバーシティ:世界に存在する食文化や宗教などを背景とした特徴的な食生活や料理が多様に存在すること。

※ムスリム:世界三大宗教の一つであるイスラーム(イスラム教)を信仰している人々。

※ベジタリアン:肉、魚介類および、それらの副生成物(含有食品)を食べない人々。

【取り組み例】

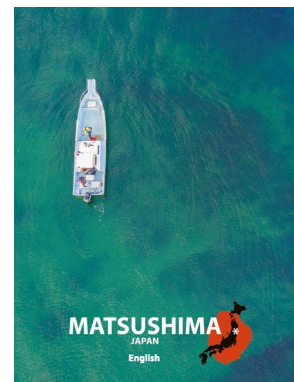
- ・ 多様な宗教的・文化的習慣を有する旅行者への理解促進を図り、協力事業者を募る
- ・ 上記の旅行者が安心して観光できる環境の整備検討(ハード・ソフト両面)

基本事業② 訪日外国人観光客の観光情報へのアクセシビリティ向上

松島に訪れた外国人来訪者が安心して快適に移動・滞在・観光することができるよう、多言語に対応した外国語表記の観光パンフレットの充実を図ります。特に、松島ならではの食のブランディング※を通して、関心をもってもらえるようなパンフレットの作成を目指します。

他の観光地の周遊拠点としても松島を利用してもらい、松島に長期滞在してもらえるよう、公衆無線LANサービスの提供範囲の拡充を目指します。また、ホームページやパンフレットなどを通じて設置場所を周知するとともに、訪日外国人旅行者が利用できる公衆無線LANスポットの視認性を高める工夫を行うなど、だれもが利用しやすいWi-Fi環境の整備に取り組みます。

加えて、訪日外国人観光客の利用促進のため、キャッシュレス決済が可能な土産物店や飲食店などの増加を推進します。



図表-42 多言語パンフレット

※ブランディング:ある特定の商品やサービスについて、消費者・顧客からの信頼や共感を通じて、顧客にとって「独自のもの」と認識されることによる価値向上や他社との差別化を図る取り組みのこと。

【取り組み例】

- ・ パンフレットやマップの多言語化、情報の充実
- ・ Wi-Fiの拡充や設置場所の周知
- ・ 訪日外国人旅行者が利用できる公衆無線LANスポットの視認性を工夫
- ・ キャッシュレス決済の導入拡大

基本事業③ 災害時に来訪者を確実に守る防災機能の強化

海岸周辺などの案内板のユニバーサルデザイン化を検討し、誰もが安心して過ごせるまちづくりを進めます。災害時には、鉄道駅や運行中の列車から、海岸地区の町民や来訪者を安全に最寄りの避難場所に避難できるよう誘導體制の確保を促進します。

また、外国語パンフレットに避難場所や、ハザードマップなどの外国語表記なども検討していきます。



図表-43 誘導サイン

【取り組み例】

- ・ 災害時に必要となる駅周辺施設の案内板のユニバーサルデザイン化
- ・ 外国語パンフレットに避難場所情報や、ハザードマップの外国語表記などの検討
- ・ 安全に関する情報発信の確立、推進



(2) 基本施策2：国内外の交流を通じた松島の魅力の発信

仙台市などの周辺自治体や日本三景の各自治体など国内の地域連携のみならず、アジア圏や欧米などの国外の都市との連携による観光交流を通じて、松島の魅力を情報発信するとともに、戦略的なプロモーション活動を推進します。

基本事業① 世界の人々の憧れをかきたてるプロモーションの推進

外国人来訪者の増加に向けたプロモーションを、短期的な集客の呼び戻しと中長期的な新たな顧客開拓を目指して実施します。

短期的には、新型コロナウイルスで落ち込んだインバウンド需要を本格的に回復させるため、日本の風土に裏付けられた生活・文化・食事・アート・空間を体験したいと考える外国人来訪者に対して、新緑や紅葉、冬の松島など四季折々を楽しめるイベントの魅力を、SNSを通じて広く世界へ発信します。

中長期的には、近隣都市及び観光事業者との連携により台北国際旅行博などの海外旅行博への出展を進めるほか、旅行会社やメディア関係者との商談会を実施します。また、欧米の大学などの研修旅行の誘致を推進するなど、現地の旅行会社に対して情報発信や関係強化などの働きかけの実施を検討します。

また、世界で最も美しい湾クラブ登録の強みを活かした本物の魅力を伝えるPR資料などを作成し、質の高いジャパンプランドの一つとして欧米の中間層から富裕層をターゲットとした専門会社へのアプローチを検討します。



図表-44 BtoB 国際旅行博（英）
出典：日本政府観光局（JNTO）HP

【取り組み例】

- ・ SNS等を活用した広く世界に向けたプロモーションの実施
- ・ ファムトリップの推進（海外の様々な旅行会社に対しての情報発信やモニターツアー受入、関係強化などの働きかけ）
- ・ 鉄道事業者、クルーズ船社、航空会社と連携したオプションツアーの企画

基本事業② 地域連携による松島、東北の観光交流の促進

仙台市などの周辺自治体と連携しながら、松島と関連したコンベンションの招致開催を推進します。また、イベント等の受入れ体制の強化を図るとともに、誘客効果を活かして観光振興に役立てます。こうした各種イベントやコンベンションの招致、開催にあたっては、DMOと連携しながら推進します。

その他、世界文化遺産である平泉とのコラボレーションによるパッケージツアーや、JRによるデスティネーションキャンペーンなどにおいて、松島のPRの強化、観光メニューの充実、観光業者の協力体制の強化などを推進します。



図表-45 仙台・宮城観光キャンペーン

【取り組み例】

- ・ 国内各自治体との連携強化
- ・ 広域モデルルート構築
- ・ DMOと連携しながら、イベントなどの受入れ体制の強化・推進

基本事業③ 松島町に関連性のある外国文化のPRや教育イベントの開催

町民が異なる文化との相互理解を深める機会を提供し、震災復興支援や世界で最も美しい湾クラブにより交流が生まれた海外との関係を活かして、教育イベント開催などによる国際交流の推進を図ります。加えて、欧米各国やアジア圏域との交流を推進するとともに、姉妹都市提携も視野にいたれた欧米都市とのチャンネルづくりを推進します。

また、訪日教育旅行は国際交流による相互理解を増進させ、その国際理解教育が地域の活性化につながるものであることから、受け入れを強化し、来訪者側とのマッチングに必要な体制の構築を促進します。

【取り組み例】

- ・ 町民が異なる文化との相互理解を深める機会を提供
- ・ 訪日教育旅行の受け入れを強化し、来訪者側とのマッチングに必要な体制構築の促進
- ・ 海外との交換留学、教育旅行の推進を検討

基本事業④ 国内外のメディアの誘致 **【新規】**

テレビ番組や映画・ドラマなどのロケ地として対応できるよう撮影支援を充実させ、支援作品を通じた松島のPRなどを推進します。加えて、インターネット上で影響力のある人物や松島町観光親善大使によるPRイベントの開催や大使を通じた松島の情報発信など、プロモーション活動を継続します。プロモーションビデオに関しては、駅やレストハウスのデジタルサイネージ等で上映することで、広く発信できるよう取り組みます。

【取り組み例】

- ・ 既存施設や名所のロケ地等への活用推進
- ・ メディアを活用したプロモーションビデオの作成検討

4. 基本方針4：時代の変化に対応した新たな担い手づくり

(1) 基本施策1：松島を支える人・組織づくりの推進

松島の恵まれた自然や、自然と歴史が調和した美しい景観を次世代に継承し、松島観光を持続的に発展させていくため、観光を牽引する人・組織づくりを推進するとともに、新たな事業展開を検討している起業家・創業家の活動支援を図ります。

また、地域住民も一体となった観光地域づくりを推進することにより、観光を通じて住民が自ら地域に誇りと愛着を感じられる活力に満ちた地域社会を作ることを目指します。

基本事業① 観光を牽引する人づくりの推進及び起業家・創業家の活動支援

松島町では、多くの町民が、ボランティアガイドとして観光に関わる活動(地図づくり、地域の歴史学習、外国人来訪者へのボランティア通訳など)を行っています。その活動を継続的に推進するとともに、さらなる観光ガイドの人材育成を推進します。

また、体験旅行のメニュー提供者育成や、松島観光の基本コンセプトを踏襲しつつ、時代にあった新しい見せ方を観光メニューとして提供し続ける人材育成を進めます。

加えて、新たな事業展開を検討している起業家等を対象とした相談、補助、融資制度等の支援の他、物件に関する相談体制の充実により、起業家・創業家の活動支援を図ります。

【取り組み例】

- ・ ボランティアガイドの活動推進
- ・ 新たな事業展開を検討している起業家に対する支援・相談体制の充実

基本事業② 町民の心温まる「おもてなし力」の向上

全町民が町全体で来訪者をおもてなしできるようになるため、町民観光ガイドの継続的な育成を推進します。

小学生などを対象とした遊覧船体験、座禅体験などの実施や、子ども観光ガイド・子ども記者などの導入、また歴史や文化を学校や子ども向けの地域の講座などで学び、農業や漁業体験の機会を設けるなど、子どもの時から松島の魅力に触れ、価値を知る仕組みづくりを継続的に推進します。

また、新商品開発やおもてなしツアーなどの取り組みを実施している地元高校との継続的な連携や、豊富な知識を有する高齢者ガイドの育成により、幅広い年代の町民が観光業に関わり続けることのできる環境づくりを支援します。

加えて、観光遊覧船内において、松島全体の良さや四季折々の見どころなどが案内できる観光ガイドの育成とガイドの質の向上を継続して促進します。



図表-46 松島高校のおもてなしツアー

【取り組み例】

- ・ 小学生を対象とした松島の魅力に触れ、価値を知る仕組みづくりの推進
- ・ 松島の四季折々の見どころを案内できる幅広い年代のガイド育成と質向上の促進

(2) 基本施策2：「稼ぐ観光地域」の体制構築に向けた支援促進

松島町の基幹産業である観光産業は、裾野が極めて広いことから、観光産業が収益力を高め、適正な対価を享受して収益を地域内で循環させることが、観光産業に人材を惹きつけ、観光地の持続的な発展を実現するためには必要です。

このことから、町内の様々な事業者・団体や、産業が連携しながら、松島観光の面的な高付加価値化を推進します。

基本事業① 観光関連団体及び産業間の連携強化

松島町における更なる魅力ある観光まちづくりを推進するため、観光事業者・団体の連携による来訪者ニーズの把握やクレーム情報の共有化を図るとともに、観光業だけではなく農林水産業などの産業ネットワークの形成により、観光を軸とした地域資源の高付加価値化を図ります。その高付加価値化が町内産業の収益性向上や、新たな働き口の確保に繋がることで、地域経済の好循環を創出します。

また、着地型観光を推進していくにあたり、体験メニューをワンストップサービスで売り込みができるようエージェント機能の強化を図ります。

【取り組み例】

- ・ 来訪者ニーズやクレーム情報の調査、及び観光事業者への結果共有
- ・ 観光を軸とした産業ネットワークの推進

基本事業② 松島の新商品開発及びイベント等の開催支援

新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ観光客を取り込むために、様々な観光メニューの開発を進めていく必要があることを踏まえ、地場産品活用のための研修会等の開催等により、松島らしい土産の商品開発支援を行うとともに、地場産品の販路拡大とその支援を行います。

また、コロナ禍後における商店街の活性化に向けた支援として、補助金交付等の支援や、イベント等の開催支援を今後も継続して推進していきます。



図表-47 アカモクを使用した開発メニュー『どらモク』

【取り組み例】

- ・ 地場産品活用のための研修会等の開催
- ・ イベント等の開催支援
- ・ 補助金交付等の支援



基本事業③ 近隣市町村・交流都市との連携による観光資源の高付加価値化【新規】

仙台都市圏を中心とした近隣市町村との連携により、観光客のニーズや嗜好の把握と、得られた情報を圏域で共有することにより、多様な観光客に訴求する方法で情報発信を行うなど戦略的な活用を図るとともに、各市町村の特色ある他分野・異業種との連携も視野に入れ、観光資源の高付加価値化を推進します。

また、日本三景の各自治体と連携し、日本三景としてのイベントやキャンペーンの実施など、日本三景のまちとしての松島のPRを強化するほか、国内の交流都市などとも連携し、町民の交流の活性化や相互の名産品のPRなど、プロモーション活動を強化し、販路の開拓・拡大を図ります。

【取り組み例】

- ・ 近隣市町村と連携した来訪者情報の共有
- ・ 近隣市町村との連携による観光資源の高付加価値化の支援
- ・ 交流都市との連携による観光資源のPR

(3) 基本施策3：観光DXの推進

持続的な松島観光の発展に向けて、観光産業の生産性向上、また人材不足の解消を図るため、情報発信やマーケティング手法等へのデジタル技術の活用を推進します。

なお、デジタル技術活用の推進にあたっては、現状の観光地・松島のデジタル化を進める上でどのような課題があるかを明確にし、地域に合ったデジタルツールの活用を検討します。

また、DMOや実績のある企業と連携することにより、観光デジタル人材の育成・活用を推進していきます。

基本事業① 観光マーケティングの導入推進【新規】

観光を取り巻く外部環境の変化に迅速に対応し、松島観光を持続的に発展させていくため、最新の観光動向や、来訪者の傾向・ニーズを正確に捉え、効率的に新たな来訪者やリピーターの獲得に繋げることを目的に、観光マーケティングの導入を促進します。

また、仙台都市圏との連携により効果的に来訪者を獲得するため、DMOとの連携によるマーケティング及び観光地経営の戦略策定等の取り組みについて検討します。

【取り組み例】

- ・ 来訪者の傾向など観光マーケティングデータの取得
- ・ DMOとの連携によるマーケティング及び観光地経営の戦略策定の推進

基本事業② 来訪者の利便性向上・周遊促進に資する情報発信の提供【新規】

近年の情報関連技術や通信手段の多様化・高度化に対応し、来訪者の利便性向上、周遊促進を図るため、観光中心地における店舗や駐車場、トイレ等の便益施設の混雑状況、また休憩施設の位置などについて、来訪者自身が必要な情報を、必要なタイミングで気軽に入手できるような情報提供のあり方について検討を行うとともに、その取り組みを推進します。また観光案内だけに留まらず、双方向のコミュニケーションが可能な仕組みの構築についても検討を行います。

また、5Gなど時代に対応した情報通信の充実や、AI技術の導入に向けて取り組むことにより、住民や松島を訪れる方など多くの人が利用しやすい情報通信網のネットワーク化・高度化を図ります。



図表-48 混雑状況の可視化の取組例
(令和5年度)

【取り組み例】

- ・ 観光中心地の店舗や駐車場、トイレの混雑状況が分かるデジタルマップの活用
- ・ 来訪者と双方向のコミュニケーションが図れる仕組みの構築
- ・ 5Gなど情報通信の充実及びAI技術の導入に向けた取り組みの推進



基本事業③ 観光デジタル人材の育成・活用【新規】

観光地域づくりを牽引する人材育成として、観光分野のデジタル人材に必要な知識・技能の修得に向けて産学官の連携を強化し、リカレント教育※を推進するほか、DMO等との連携により、観光デジタル人材の育成・活用を図ります。

※リカレント教育:「リカレント(recurrent)」とは、「繰り返す」「循環する」という意味であり、学校教育からいったん離れて社会に出た後も、それぞれの人の必要なタイミングで再び教育を受け、仕事と教育のサイクルを繰り返すこと。

【取り組み例】

- ・ 産学官の連携強化による観光分野に関するリカレント教育の推進
- ・ DMOとの連携による観光デジタル人材の育成・活用支援

第5章



計画の推進に向けて





第5章

計画の推進に向けて

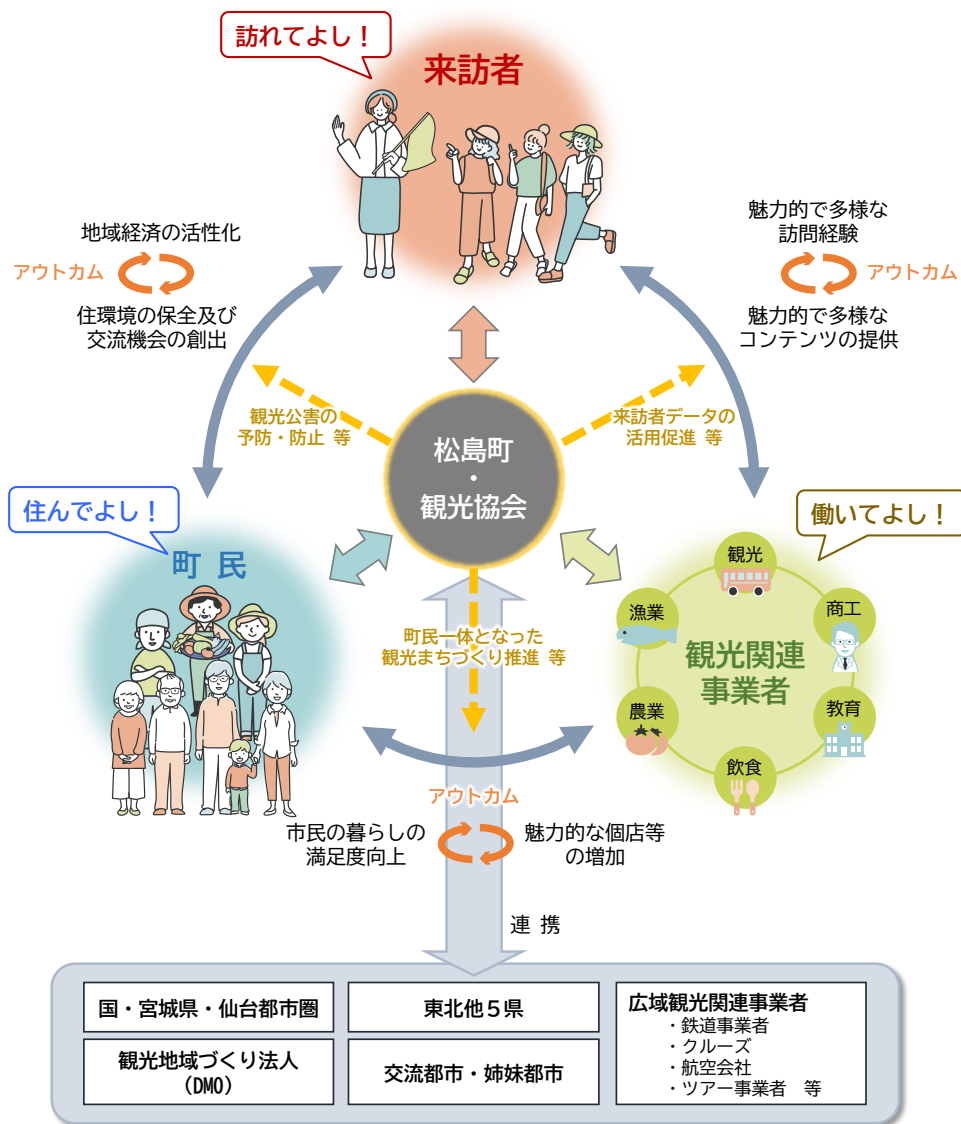
1. 推進体制

計画の推進にあたっては、町民・観光関係者・商工関係者・農業関係者・漁業関係者及び本町が、それぞれの立場で観光に携わり、効果的に連携していく仕組みを創造していくことが大切です。

また、「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりを進めるため、観光地域づくり法人(DMO)との協働により、マーケティング等に基づく「稼ぐ観光地」づくりに向けた取り組みを推進します。

加えて、町内の各産業の関係者が主体的かつ着実に計画を実行するとともに、行政がその取り組みを支援し、その進捗状況を確認・評価し、時代の動向にあった展開を臨機応変に行っていくことが重要です。

また、本計画を松島町に関わる観光関係団体に広く周知し、同じ方向性をもって持続的な観光振興を図ることを推進します。



図表-49 三方良しに向けた計画の推進

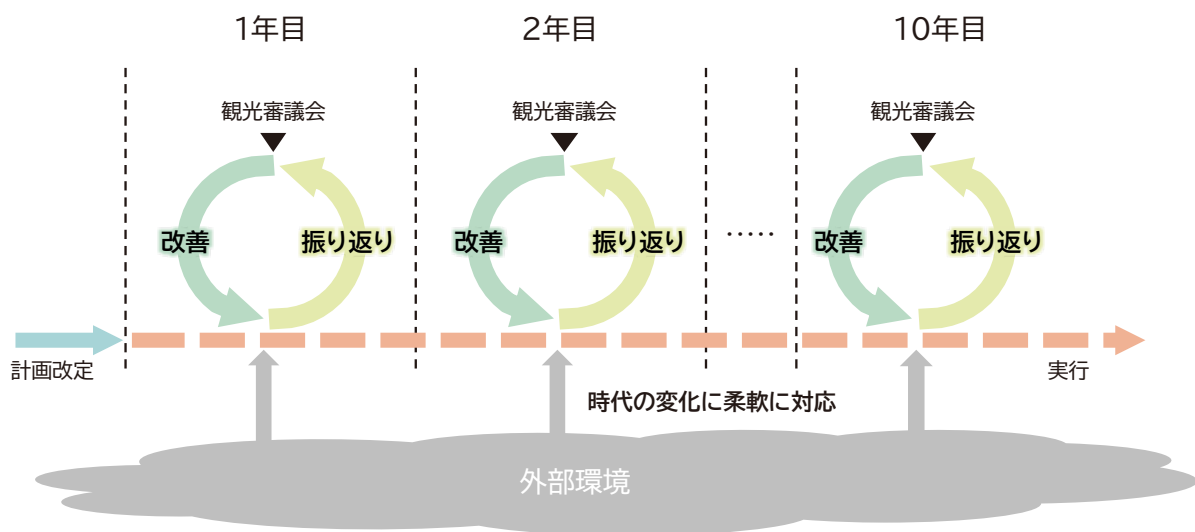


2. 進捗管理の方法

計画の計画期間は10年としますが、特に外部環境の変化による影響の大きい観光業において、時代の変化に伴う人々のニーズの変化に迅速に対応するため、準備をしたらすぐに実行へと移す「仮説検証」型のマネジメントを行い、それに対して適切に評価・振り返りを踏まえた改善を図ります。

計画全体を通して、観光審議会による定期的なモニタリングにより、庁内及び各産業に関わる関係者や町民の役割を明確にすることで、計画の推進を図ります。

そして、観光に関する新たなアイデアについて適切なタイミングで準備・実行し、その結果を評価することにより、時代の変化に柔軟に対応し、持続的に発展可能な松島観光を目指します。



図表-50 進捗管理の流れ

松島町観光審議会委員名簿

(50音順, 敬称略)

No	氏名	団体等名・役職	備考
1	小金 聡	宮城県立松島高等学校 校長	
2	齋 愛子	JR東日本東北総合サービス株式会社 松島海岸駅 駅長	
3	西條 博也	松島温泉組合 組合長 宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合松島支部長	
4	志賀 寧	一般社団法人 松島観光協会 会長	
5	鈴木 正太郎	松島町認定農業者	
6	大宮司 保子	松島海岸中央商店会	
7	千葉 伸一	元松島町歴史文化基本構想策定委員会 委員長	
8	千葉 光晴	高城町商業振興会 会長	
9	藤澤 秀行	株式会社七十七銀行 松島支店 支店長	



宮城県
松島町